

# CSR Report 2011



田辺三菱製薬株式会社  
CSRレポート 2011

田辺三菱製薬は、医薬品の創製を通じて、患者さんの健康を守り、豊かな生活に貢献するという普遍的価値観を基本として、新たな成長を果たし、国際創薬企業として、広く社会から信頼される企業をめざします。

## 企業理念

### 医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献します

「企業理念」は、医薬品の創製という原点に今一度立ち返り、「私たちの存在意義・存在理由」を言葉に表したものです。

## めざす姿

### 国際創薬企業として、社会から信頼される企業になります

「めざす姿」とは、この「企業理念」に基づき事業を展開することで実現すべき企業像です。

## 企業行動憲章

### 私たちは一人ひとりが高い倫理観を持ち、公正かつ誠実であることをすべてに優先し、つぎのとおり行動します

#### ● 使命感と誇り

医薬品の創製に携わる者としての使命感と誇りを持ち、求められる医薬品の研究開発と製品の安全性・品質の確保に力を尽くします

#### ● 挑戦と革新

鋭敏な感性と広い視野で進むべき方向性を見据え、より高い目標に果敢に挑戦し、革新的な価値を創出します

#### ● 信頼と協奏

自由闊達なコミュニケーションを通じて互いを理解・尊重し、深い信頼関係のもとで力を合わせ、成果の最大化を図ります

#### ● 社会との共生

地域社会や地球環境に配慮した活動を通じ、社会との共生を図ります

企業行動憲章は、「企業理念」を踏まえ、「めざす姿」の実現に向けた企業活動において、田辺三菱製薬の全役員および全従業員が最優先とする行動の規範と位置づけたものです。

## 編集方針

このレポートは、患者さん、医療関係者、株主・投資家、地域社会、従業員など、幅広いステークホルダーを対象に、当社グループが2010年度に実施した主なCSR活動についてお知らせするものです。

今回のレポートでは、「研究開発」「信頼性保証」「生産体制」「供給体制」「情報提供」などのテーマごとに、「医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献する」という当社の企業理念に基づいた具体的な取り組みについて紹介します。

なお、文章中における医療・薬学関連の専門用語については、巻末に用語解説を設けています。

## 田辺三菱製薬CSRレポート2011について

- 対象期間：2010年4月1日～2011年3月31日  
(報告事例によっては、2011年4月以降の内容を含みます)
- 対象範囲：田辺三菱製薬株式会社および国内・海外のグループ会社  
(報告事例によっては、対象範囲が異なる場合があります)
- 参考にしたガイドライン  
・環境省「環境報告ガイドライン2007年版」  
・グローバル・リポーティング・イニシアティブ(GRI)  
「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3版」
- 今回発行時期：2011年10月
- 次回発行予定：2012年8月
- お問い合わせ先  
田辺三菱製薬株式会社 広報部  
〒541-8505 大阪市中央区北浜2丁目6-18  
電話：06-6205-5211 FAX：06-6205-5105  
ホームページ：http://www.mt-pharma.co.jp



## CONTENTS

- 04 | トップメッセージ
- 06 | 事業活動
- 08 | 田辺三菱製薬グループの医薬品
- 10 | 研究開発
- 16 | 信頼性保証
- 19 | 生産体制
- 22 | 供給体制
- 24 | 情報提供
- 28 | 田辺三菱製薬からのご報告  
「品質管理問題について」  
マネジメント
- 30 | コーポレート・ガバナンス
- 32 | コンプライアンス・リスクマネジメント
- 34 | 人材育成と職場づくり
- 38 | 社会貢献活動
- 環境活動
- 40 | 環境安全マネジメント
- 42 | 環境負荷の全体像
- 44 | 省エネルギー・地球温暖化防止
- 47 | 廃棄物の削減
- 48 | 化学物質の適正管理
- 49 | 環境コミュニケーションの推進
- 50 | 第三者検証報告書
- 51 | 第三者意見
- 52 | 用語解説

# 製薬企業としての社会的使命を再認識し、 新たな企業風土の醸成と、 医療へのさらなる貢献を追求していきます。

---

### 大震災に直面し、医薬品の 安定供給の重要性を再認識しました

2011年度のCSRレポートを皆様にお届けするにあたり、田辺三菱製薬を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。

今年3月、東北地方を中心とする東日本大震災が発生しました。未曾有の災害によって犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様ならびにご家族の方々に対して心よりお見舞い申し上げます。そして、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当社グループにおきましても、田辺三菱製薬工場の足利工場（栃木県足利市）および鹿島工場（茨城県神栖市）、東日本物流センター（千葉県柏市）が、震災の影響により、一時的に操業停止となりましたが、いずれも4月11日より操業を再開することができました。

震災後、被災された方々の想像以上に厳しい現実を目の当たりにし、私どもの力の及ぶこと、及ばぬことなど、さまざまに思いを馳せる中で、改めて考えさせられたのは、製薬企業としての社会的使命です。被災地では、医療現場で必要とされる医薬品を入手できないケースが多発していました。製薬企業としての務めは、医薬品の研究開発や製造だけでなく、いかなるときでも患者さんのもとへ確実に医薬品をお届けできるよう全力を尽くすことであると再認識いたしました。そして、医薬品の研究開発から製造、流通に至るま

で製薬企業としての責務をこれまで以上にしっかりと果たすべきであると決意した次第です。

---

### 患者さんのために 新たな貢献をめざしていきます

製薬企業のあるべき姿として、事業活動そのものが社会に貢献すると受け止めていただけること、その実現こそが私の使命であると確信しています。

当社製品の中には、オーファンドラッグやワクチンなど、社会的意義が大きい医薬品や患者さんの生命に直結する医薬品が数多くあります。また、抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体製剤「レミケード」は、関節リウマチをはじめ、さまざまな難病に適応症を拡大し、医療現場になくてはならない製品となっています。

さらに、研究開発では、アンメット・メディカル・ニーズをしっかりと受け止め、難治性疾患の治療に役立つ医薬品の研究開発を継続的に進めており、患者さんのQOLに貢献できる、新たな医薬品の創出をめざして取り組んでいます。私は、これら医薬品の研究開発への取り組みこそが、製薬企業に求められるものであると考えております。

当社グループの医薬品は日本国内のみならず、欧米やアジアなど広い地域でご使用いただいております。当社の企業理念にもあるとおり、医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献しているという思いをもって経営に取り組んでいきたいと考えております。

## 改善計画の実行を経営の最重要課題として再発防止策を徹底していきます

当社グループをあげてメドウェイ問題の業務改善計画を推進する過程で、2011年1月、グループ会社である田辺三菱製薬工場の足利工場において、一部製品で出荷判定に必要な品質試験を実施せずに出荷していたことが判明しました。さらに、同年7月、当社は厚生労働省より改善命令を受けるとともに、田辺三菱製薬工場の足利工場は、栃木県より業務停止10日間の処分を受けました。このような問題を引き起こしたことを深く反省するとともに、患者さんと医療関係者をはじめとする皆様方にご迷惑とご心配をおかけいたしましたこと、心からお詫び申し上げます。

当社はメドウェイ問題に係る業務改善計画を策定し、再発防止と信頼回復に向けた取り組みをグループ全社を挙げて推進してきました。しかしながら、このような重大な問題を再び招いたことから、これまでの改善計画に基づく再発防止の取り組みが不十分であったと言わざるを得ません。

当社は、メドウェイ改善計画に基づく再発防止策を見直し、2011年8月に厚生労働省に提出しました。改めまして、この改善計画の実行を経営の最重要課題として位置づけるとともに、同じ事態を再び繰り返さない管理体制へと改善すべく、再発防止策の徹底を図り、社会の皆様方からの信頼回復に当社グループを挙げて全社一丸となり取り組んでいきます。

## これからも「夢のある新薬 夢のある企業」を追求していきます

当社は、2007年10月の発足以来、国際創薬企業の早期実現に向け、「中期経営計画 08-10」の重点課題に積極的に取り組んできました。中でも、重点開発プロジェクトを確実に推進することにより、新製品上市に向けた開発パイプラインを充実させることができました。

た。また、グローバルな戦略的アライアンスを積極的に活用することで、欧米やアジアの事業基盤を強化し、海外事業展開を加速させています。

また、当社の課題として、社内での一体感をより一層醸成させ、新しい企業風土を作り上げることが必要だと考えています。新しい企業風土、それは自由闊達な企業風土です。そのためには、経営トップとして、今後、社内の意識改革を継続して進めていく考えです。時間はかかるかもしれませんが、私は確固たる決意のもと、新しい企業風土の実現に全力で取り組んでいきます。

さらに、研究、開発、生産、営業などすべての部門において、現場の改革と、現場力の強化をめざしていきます。そして、いつの時代においても医療への貢献を第一ととらえ、「夢のある新薬 夢のある企業」を実現することで社会への貢献につなげたいと考えています。今後ともステークホルダーの皆様のご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

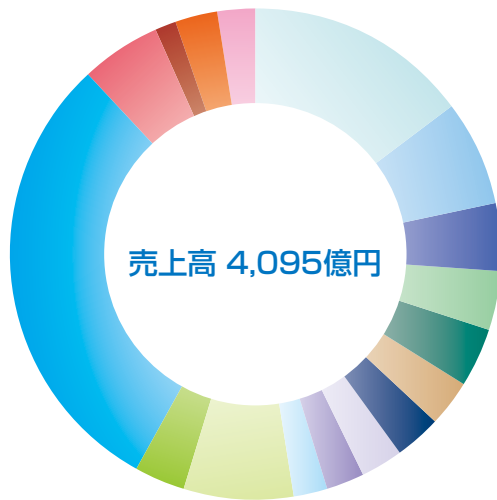


代表取締役社長

土屋裕弘

# 事業活動

## ■売上高(2010年度)



国内医療用医薬品	3,616億円
レミケード	604億円
ラジカット	287億円
セレジスト	180億円
アンブラーグ	164億円
ウルソ	153億円
タリオン	134億円
メインテート	123億円
デパス	114億円
タナトリル	96億円
ヘルベッサー	96億円
ワクチン	296億円
田辺製薬販売取扱品	140億円
その他医薬品	1,229億円
海外医療用医薬品	213億円
一般用医薬品	54億円
医薬品その他(製造受託品など)	118億円
その他(化粧品など)	93億円

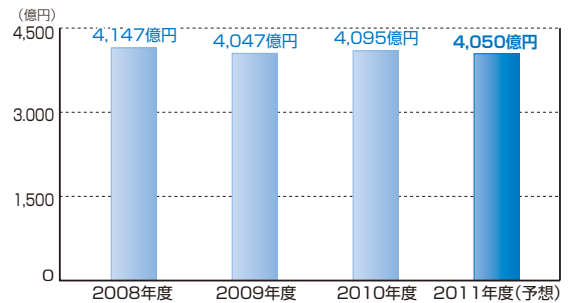
### 会社概要

社名 田辺三菱製薬株式会社  
 代表者 代表取締役社長 土屋裕弘  
 資本金 500億円  
 従業員 連結 9,198名(2011年3月末)  
 本社 〒541-8505 大阪市中央区北浜2-6-18  
 発足 2007年10月1日  
 事業内容 医薬品の製造販売

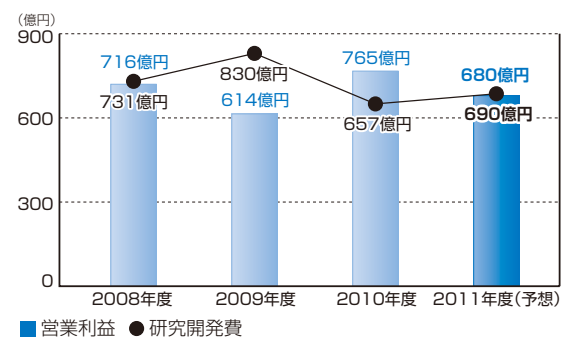
### 事業拠点

本社 本社、東京本社  
 営業拠点 北海道支店、東北支店、北関東支店、甲信越支店、東京支店、千葉支店、埼玉支店、横浜支店、東海支店、京都支店、大阪支店、神戸支店、中国支店、四国支店、九州支店  
 研究拠点 戸田事業所、かずさ事業所、横浜事業所、加島事業所  
 海外拠点 上海事務所

## ■売上高の推移(連結)

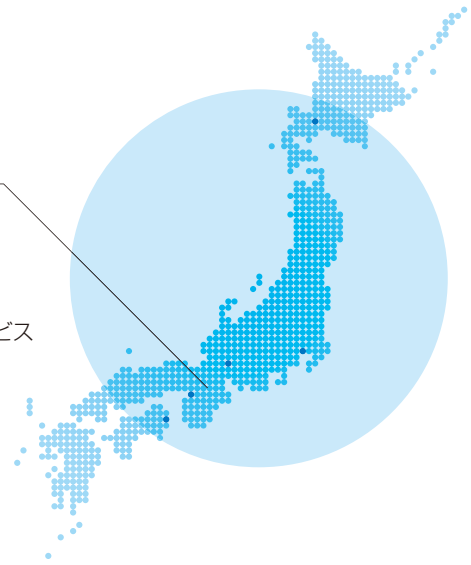


## ■営業利益・研究開発費の推移

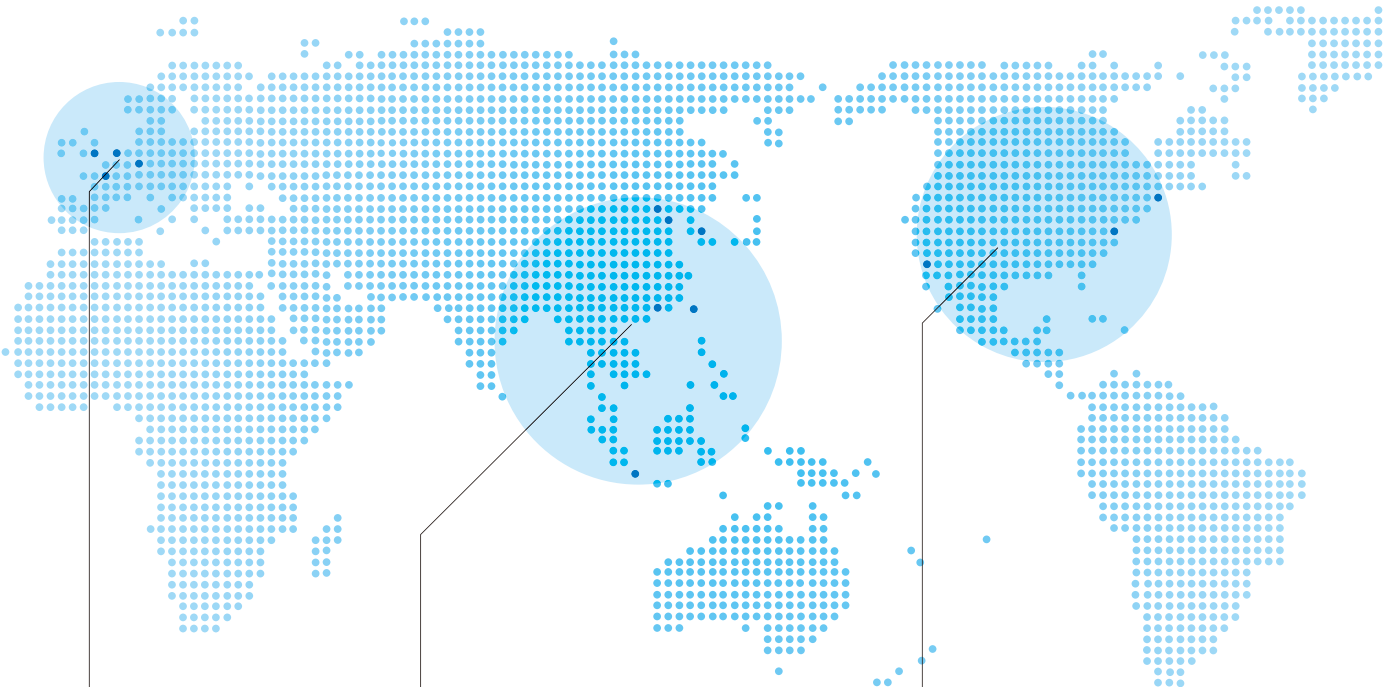


## 国内グループ会社

田辺三菱製薬工場株式会社	田辺製薬販売株式会社
田辺製薬古城工場株式会社	長生堂製薬株式会社
株式会社ベネシス	ホシエヌ製薬株式会社
株式会社バイファ	株式会社田辺アールアンドディー・サービス
株式会社エーピーアイ コーポレーション	田辺総合サービス株式会社
吉富薬品株式会社	MPロジスティクス株式会社



## 海外グループ会社



### 欧州

タナベ ヨーロッパ  
 ミツビシ ファーマ  
 ヨーロッパ  
 ミツビシ ファーマ  
 ドイツ  
 サンテラボ・タナベ  
 シミイ

### アジア

天津田辺製薬有限公司  
 三菱製薬(広州)有限公司  
 三菱製薬開発(北京)有限公司  
 広東田辺医薬有限公司  
 台湾田辺製薬股份有限公司  
 台田薬品股份有限公司  
 タナベ インドネシア  
 ミツビシ タナベ ファーマ コリア

### 米国

ミツビシ タナベ ファーマ ホールディン  
 グス アメリカ  
 タナベ リサーチ ラボラトリーズ U.S.A.  
 ミツビシ タナベ ファーマ ディベロッ  
 プメント アメリカ  
 ミツビシ タナベ ファーマ アメリカ  
 タナベ U.S.A.  
 MPヘルスケア ベンチャーマネジメント

## 田辺三菱製薬グループの 医薬品



### 高血圧・心臓

降圧剤は血圧を下げる薬で、高血圧の治療に使われます。これらの薬は、作用・効果の違いによっていくつかの種類に分けられており、それぞれの患者さんの症状に応じて処方されています。



タナトリル



メインテート



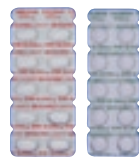
ヘルベッサー

### アレルギー

アレルギー性鼻炎や気管支喘息は、免疫システムが過剰に働き、アレルギー反応が起こることが原因といわれています。これらの製品は、疾患特有のアレルギー反応を抑え、症状を改善します。



タリオン



テオドール

### 関節リウマチ

関節リウマチの炎症には、TNF $\alpha$  (ティー・エヌ・エフ・アルファ) と呼ばれるサイトカイン (生体内物質の一種) が関与しています。治療には、レミケードに代表される生物学的製剤が使用され、そのすぐれた治療効果が注目されています。



レミケード



メトトレキサート錠「タナベ」

### 脳循環

脳梗塞の急性期の治療は、薬による内科的な治療が中心になります。現在、国内の脳梗塞の急性期の治療では、「血栓溶解薬」、「脳保護薬」、「選択的トロンピン阻害薬」などが使われています。



ラジカット



ノバスタン



グルトパ

### 末梢循環

動脈硬化や糖尿病では、末梢の血液循環が悪くなり、手足の痛みや冷感、潰瘍などが起こることがあります。これらの製品は、末梢の血管を拡張することや、血液を固まりにくくすることで、血流を良くし症状を改善します。



アンブラーグ



リプル

### 消化器

胃炎や胃潰瘍では、胃酸の分泌を抑える薬や胃粘膜を保護する薬で治療が行われます。また、肝疾患では、肝臓で胆汁酸と薬剤が置き換わることで肝細胞の障害を軽減し、肝機能を改善します。



ウルソ



オメプラゾン



ガストローム



セレキノン



## 中枢神経

中枢神経は脳と脊髄からなり、感覚、運動、意思、情緒、反射、呼吸など、身体のあらゆることをコントロールしています。中枢神経の疾病のうち、不眠症やうつ病、脊髄小脳変性症、ナルコレプシーには、これらの製品が使われています。



ドラール デパス セレジスト モディオダール

## ワクチン

ワクチンは、毒性を弱めた、あるいはなくした病原体から作られた医薬品です。ワクチンを接種することで、体内にその病原体に対する抗体を作り、感染症にかかりにくくします。



ミールビック フルービックHA 乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」

## 血漿分画製剤

血漿分画製剤は、人の血液中の血漿と呼ばれる成分から、有用なたんぱく質を分離・精製して作られる医薬品です。生体由来の血液を原料としていることから、安全性を確保するために、さまざまな安全対策を実施しています。



献血ヴェノグロブリン 1H5% ノイアート 献血アルブミン 25%

## ジェネリック医薬品

ジェネリック医薬品とは、新薬の特許期間が満了した後に発売される薬のことです。新薬メーカーとしての実績を生かし、「リライアブル ジェネリック」をスローガンに信頼できるジェネリック医薬品を提供しています。



ピオグリタゾン錠「タナベ」 アロシトール アムロジピン錠「タナベ」

## 感染症

高齢者や術後の患者さんなどで免疫が低下していると、細菌やウイルスが重篤な感染症を引き起こすことがあります。このような場合には、これらの抗菌薬や抗ウイルス薬が使われます。



パズクロス バリキサ デノシン



## 輸液

下痢や嘔吐による脱水症状、経口で食事が摂れない場合などに輸液を点滴静注することで、失われた水分や電解質、栄養素を補うことができます。



フルカリック ユニカリック アミグランド

## OTC医薬品

OTC医薬品とは、薬局やドラッグストアなどで販売されている医薬品のことです。OTC医薬品を活用することによって、自分自身で健康管理を行い、軽い身体の不調を手当てすることができます。



アスパラドリンク フルコートF軟骨 ナンパオ



# アンメット・メディカル・ニーズに 応えるために

有効な治療法がない疾患が世界にはまだ数多く存在しており、その疾患に対する医薬品の研究開発が強く望まれています。これが、アンメット・メディカル・ニーズと呼ばれるものです。田辺三菱製薬グループは、アンメット・メディカル・ニーズに応えるため、研究開発活動の推進による革新的な新薬の創製をめざし、世界の人々の健康に貢献してまいります。

## レミケードにおける効能追加の取得

抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体製剤「レミケード点滴静注用100」（一般名:インフリキシマブ）は、国内では、2002年5月にクローン病の治療薬として販売が開始され、2003年7月には関節リウマチ、2007年1月にはベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎、そして、2010年1月には乾癬の効能・効果の承認を取得しています。

さらに、2010年4月には強直性脊椎炎、2010年6月には潰瘍性大腸炎の承認を取得し、国内ではすでに7万人以上の患者さんに使用されています。

## 潰瘍性大腸炎に対する治療効果

潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜にびらん(粘膜のただれ)や潰瘍ができ、下痢・軟便、血便、腹痛などを慢性的に繰り返す大腸の病気です。原因不明で根本的な治療法は確立されておらず、厚生労働省「特定疾患治療研究事業」の対象疾患である難病に指定されています。患者さんの多くは、手術への不安や、日常生活での制約などにより、QOLが著しく低下しています。

治療の基本は薬物療法になりますが、その目的は大腸粘膜の異常な炎症を抑えて、症状をコントロールすることです。レミケードは、大腸の炎症に直接関与しているTNF $\alpha$ の働きを抑えるとともに、TNF $\alpha$ を作り出す細胞そのものを破壊する働きがあります。従来の治

療で十分な効果が得られない潰瘍性大腸炎の患者さんにレミケードを使用することで、症状の改善、入院回数や手術回数の低下などが期待できます。

## 強直性脊椎炎に対する治療効果

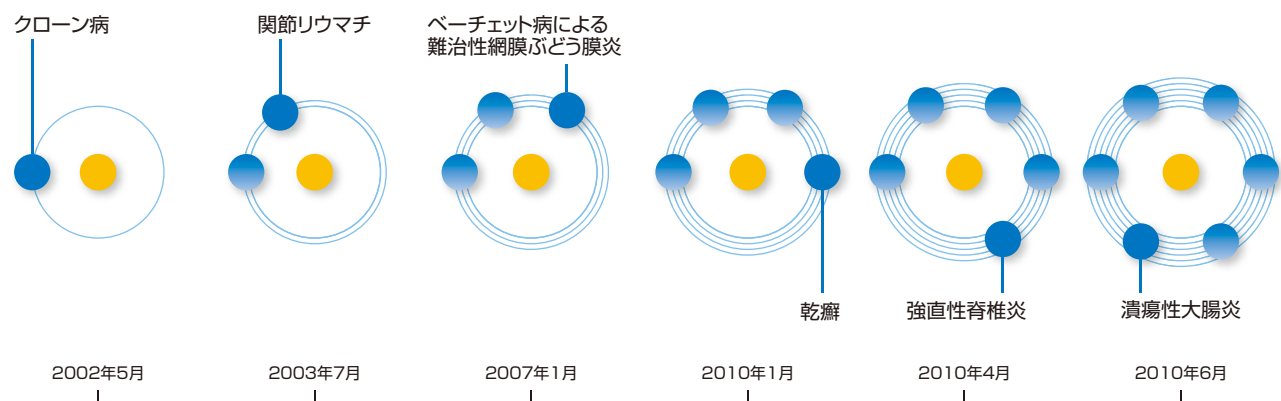
強直性脊椎炎は、脊椎や四肢の関節に炎症による痛みが生じ、これらの部位が次第に動かなくなる慢性の病気です。進行した場合、脊椎や関節がまったく動かなくなる、あるいは変性(おもに前傾姿勢)を生じることもあります。欧米に比べ、日本ではまれな疾患とされています。

この疾患の原因は不明で根本的な治療法はありませんが、TNF $\alpha$ という物質が脊椎や関節で過剰につくられ、この病気の痛みや炎症を引き起こす原因の一つであることがわかってきました。レミケードはTNF $\alpha$ の働きを阻害することで、強直性脊椎炎で起こる痛みや炎症に対して強い効果を示します。



レミケード点滴静注用100

## レミケードの効能追加



### 多発性硬化症治療薬FTY720の承認申請

田辺三菱製薬は、国内でノバルティスファーマと共同で開発を進めてきた多発性硬化症治療薬「FTY720」について、2010年12月に製造販売承認申請を行いました。

多発性硬化症は、神経症状の再発と寛解を繰り返す疾患であり、厚生労働省の特定疾患にも指定されています。症状は病変部位によってさまざまですが、視力障害、しびれ感、運動麻痺、歩行障害などを認めることが多く、慢性に進行した場合には、四肢の不自由や、車椅子での日常生活を余儀なくされることがあります。

FTY720は、新しい作用機序を有する多発性硬化症治療薬であり、これまで注射剤に限られていた薬物治療において国内初の1日1回の経口投与が可能な薬剤です。国内では、オーファンドラッグ(希少疾病用医薬品)に指定されており、疾患の再発頻度や症状の増悪を抑え、身体障害の進行を遅らせることから、多発性硬化症の治療で重要な選択肢になるものと期待されています。

なお、海外では、導出先であるノバルティスが、米国、カナダ、ドイツを含む35カ国以上で承認を取得しています。

### C型慢性肝炎治療薬MP-424の承認申請

田辺三菱製薬は、C型慢性肝炎治療薬「MP-424」について、2011年1月に国内での製造販売承認申請を行いました。

日本におけるC型肝炎ウイルスの感染者数は150~200万人と推定されています。肝癌の原因のうち、70~80%はC型肝炎によるものであり、適切な治療を行わないままC型肝炎を放置すると、20~30年で肝硬変や肝癌に至るといわれています。しかしながら、国内で実施されている標準療法ではその治療効果が十分とはいえず、より効果の高い治療法が求められています。

MP-424の国内臨床試験の成績から、同剤を標準療法に併用した場合、従来の治療法と比較して、治療効果の改善と治療期間の短縮が認められています。また、

再燃あるいは無効の患者さんにも有効性が認められており、C型慢性肝炎の新たな治療法として期待されています。

### 献血ヴェノグロブリンH 多発性筋炎・皮膚筋炎の効能追加

液状・静注用人免疫グロブリン製剤「献血ヴェノグロブリンH」において、2010年10月に「多発性筋炎・皮膚筋炎における筋力低下の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限り)」の効能が追加されました。

多発性筋炎・皮膚筋炎は、全身性の慢性炎症疾患として膠原病の一つに分類されており、その原因はいまだに解明されていません。筋肉の炎症と破壊により筋肉痛や筋力低下をきたし、関節症状や肺、心臓、消化管などの臓器障害を合併することがあります。

治療薬としては、まずステロイド剤が使用されますが、一部の患者さんでは十分な改善が認められない場合があります。献血ヴェノグロブリンHの国内臨床試験では、ステロイド剤で効果不十分な患者さんを対象に、薬剤投与前後で比較検討した結果、主要な筋肉における筋力検査や日常生活での基本動作を判定する指標で有意な改善が認められました。また、安全性においても、すでに承認されている効能・効果と比較して差異がないことが確認されています。



献血ヴェノグロブリンH5%静注1g/20mL

## 新薬創出に向けた戦略的アライアンス

田辺三菱製薬は、医薬品の創製を通じて世界の人々の健康に貢献するという企業理念のもと、新薬の継続的な創出をめざし、戦略的アライアンスを積極的に展開しています。

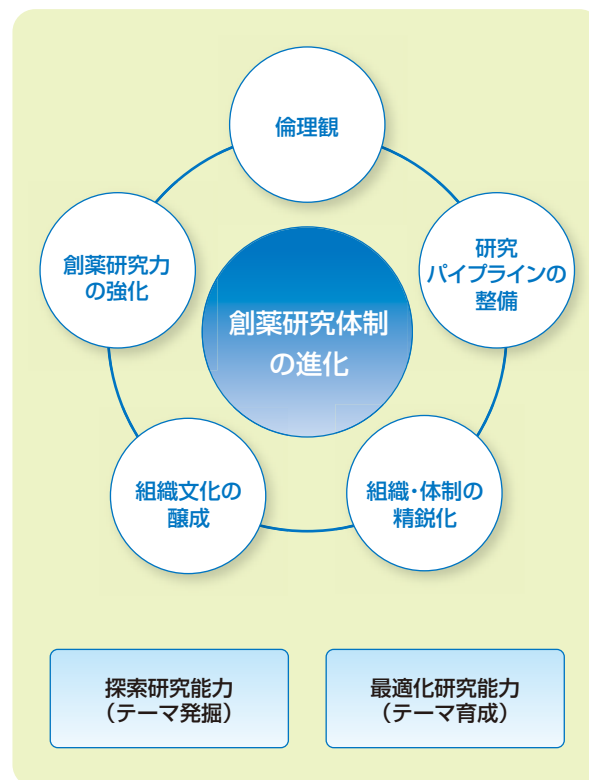
2010年12月、米国アナフォア社が有するアトリマー技術に基づく共同研究について、同社との研究を開始しました。アトリマーは、アナフォア社が次世代バイオロジクス技術によって開発した機能性タンパク質であり、立体構造を変化させることで、さまざまな標的物質に結合することができます。当社と米国研究子会社であるタナベ・リサーチラボラトリーズU.S.A.は、アナフォア社とアトリマーの共同研究を進め、関節リウマチ、炎症性腸疾患、乾癬などの自己免疫疾患を対象とした治療薬の創製をめざします。

また、2011年3月、国立大学法人京都大学との協働による「慢性腎臓病の革新的治療法を指向する基礎・臨床研究プロジェクト」がスタートしました。慢性腎臓病は、腎機能が慢性的に低下していく疾患であり、日本には1,300万人以上の患者さんが存在するといわれています。放置したままで病気が進行すると腎不全になり、人工透析や腎移植が必要となります。当社は、このプロジェクトを通じて、2011年4月より5年間にわたって慢性腎臓病に対する薬物の標的探索と開発を進め、革新的新薬の創出をめざします。

## 研究体制

研究本部では、世界に向けた新薬の継続的な創製のために、「創薬基盤を強化」し「研究ポートフォリオを充実」させ、コーポレート部門・CMC本部・開発本部との連携を促進しています。研究員の自由闊達な議論を通して各研究所の専門性を融合することで、研究プロジェクトを着実に推進します。また、社外協業を積極的に進め、自社の創薬研究を強化します。高い倫理観・共通の価値観を醸成する「風土改革」を進め、信頼性の高いデータを取得します。

## ■創薬研究体制の進化



## 生命倫理への配慮

新薬の研究では、医薬品としての有効性・安全性を確認し予測するための動物実験が不可欠です。また、患者さんから提供いただいた組織や細胞を用いる研究の重要性も高まってきています。田辺三菱製薬は、動物実験の国際原則を基本理念として、動物実験委員会で実験計画の妥当性について審査し、動物福祉に配慮した上で実施しています。ヒト由来の試料を用いる研究では、インフォームド・コンセントの徹底やプライバシー保護など、研究計画の倫理的および科学的妥当性について、研究倫理審査委員会で慎重に審査しています。公正性・中立性・透明性を確保するため外部委員をメンバーに加えるとともに、研究員の生命倫理に対する意識向上にも力を入れています。

価値ある医薬品の創製に向けて

田辺三菱製薬では、世界の人々の健康に貢献するため、価値ある医薬品の創製に向けてグローバルな開発プロジェクトを推進しています。医療の現場で求めら

れる医薬品を一日でも早く患者さんにお届けするために、自社開発によって新薬を創出するだけでなく、戦略的アライアンスも積極的に活用し、開発パイプラインの強化・充実を図っています。

開発パイプライン(2011年7月29日現在)

開発コード/ 製品名	対象疾患	開発地域	開発ステージ				承認	起源	開発会社
			フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請			
CNT0148	関節リウマチ	日本					2011.7	ヤンセン・バイオテック(米)	ヤンセンファーマ(共同開発)
FTY720	多発性硬化症	日本					2010.12	自社	ノバルティスファーマ(共同開発)
MP-424	C型慢性肝炎	日本					2011.1	ヴァーテックス(米)	自社
リパロ	高コレステロール血症 家族性コレステロール血症	台湾					2011.1	興和	台田薬品
		インドネシア				2010.6			タナベ インドネシア
MP-513	2型糖尿病	日本						自社	自社
		欧州							
		米国							
BK-4SP	ワクチン	日本					一般財団法人 阪大微生物病研究会	一般財団法人 阪大微生物病 研究会(共同開発)	
MCI-196	高リン血症	米国・欧州					自社	自社	
MP-146	慢性腎臓病	米国・欧州					クレハ	自社	
MP-214	統合失調症	日本					ゲテオン・リヒター(ハンガリー)	自社	
TA-7284	2型糖尿病	日本					自社	自社	
MP-435	関節リウマチ	日本					自社	自社	
MT-2832	二次性副甲状腺機能亢進症	米国・カナダ					サイトクローマ(カナダ)	自社	
MCI-186	脳梗塞急性期	欧州					自社	自社	
MT-4666	アルツハイマー病	日本					エンヴィヴォ(米)	自社	
GB-1057	安定化剤	米国					自社	自社	
TA-8995	脂質異常症	欧州					自社	自社	
MP-124	脳梗塞急性期	米国・カナダ					自社	自社	
MP-136	脂質異常症	欧州					自社	自社	
MT-3995	高血圧	欧州					自社	自社	
MP-157	高血圧	欧州					自社	自社	
MT-1303	多発性硬化症	欧州					自社	自社	
レミケード	強直性脊椎炎	日本					2010.4	ヤンセン・バイオテック(米)	自社
	潰瘍性大腸炎	日本					2010.6		
	クローン病(用法・用量の変更)	日本					2010.12		
	多発性筋炎・皮膚筋炎	日本					2010.10		
	低・無ガンマグロブリン血症(用量追加)	日本					2010.5		
	免疫グロブリンG2欠乏症	日本					1997.12		
献血ヴェノ グロブリンIH	重症筋無力症	日本					2010.12	自社	自社
	全身性強皮症	日本							
バスクロス	敗血症・肺炎球菌 重症・難治症例(用量の追加)	日本					2010.7	富山化学工業	富山化学工業(共同開発)
ノバスタン	HITにおける経皮的冠 インターベンション時・ 血液透析時の血液凝固防止	日本					2011.5	自社	第一三共(共同開発)
メインテート	慢性心不全	日本					2011.5	メルク(独)	自社(知申請)
アザニン	治療抵抗性のリウマチ性疾患	日本					2011.5	グラクソ・スミスクライン(英)	
抗D免疫 グロブリン	妊娠後28週間後等のD(Rho) 因子による感作の抑制	日本					2011.5	自社	
モディオダール	閉塞性睡眠時無呼吸症候群	日本					2010.5	セファロン(米)	アルブレッサファーマ(共同開発)
ラジカット	筋萎縮性側索硬化症	日本						自社	自社
コレバイン	2型糖尿病	日本						自社	自社
	高リン血症	日本							
開発コード/ 製品名	対象疾患	開発地域	開発ステージ				承認	導出先	
FTY720	多発性硬化症	米国・欧州					2010.9	ノバルティス(スイス)	
TA-1790	勃起不全	韓国					2011.1	JWファーマ(韓国)	
		米国					2011.6	ヴィーヴァス(米)	
TA-7284	糖尿病 肥満	米国・欧州						ジョンソン・エンド・ジョンソン(米)	
		米国・欧州							
T-0047	多発性硬化症	欧州					グラクソ・スミスクライン(英)		
MKC-242	不眠症	米国					メディシナ(米)		
MKC-231	うつ病/不安障害	米国					ブレインセルズ(米)		
Y-39983	緑内障	日本					千寿製薬(日)		
MT-210	統合失調症	欧州					キレナイック(仏)		
MKC-733	胃食道逆流症	米国					エデューサ(米)		
sTU-199	胃食道逆流症	欧州					ネグマ(仏)		
TT-138	頻尿/尿失禁	米国					メディシナ(米)		
TA-7906	アトピー性皮膚炎	日本					マルホ(日)		

## TOPIC ワクチン事業の展開

ワクチンは医療用医薬品でありながら、他の医薬品とは決定的に違う点があります。それは、一般的に医薬品が患者さんの病気の治療のために処方されるのに対し、ワクチンは健康な人が健康を維持する、病気にかかりにくくするために使用されることです。

感染症対策に最も有効な手段といわれているのがワクチンの予防接種です。現在、田辺三菱製薬では、主に小児のワクチンを取り扱っています。具体的には、麻しん風しん混合ワクチン、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンなどです。世界最高水準の医療制度・診療体制を誇る日本であっても、麻しんや日本脳炎といったウイルス感染症に対する特効薬はありません。だからこそ、ワクチンの予防接種が

重視されるのです。

かかるまえにできること、それが予防接種です。当社は、ワクチンに関する健康支援サイト「ワクチン.net」を通じて、予防接種に関する正しい知識を提供するとともに、啓発ツールの無償提供など、全国の自治体や教育現場において予防接種の啓発活動に携わられている方々に対する活動支援を行っています。

私たちを取り巻く環境には、非常に多くの感染症が存在します。しかしながら、それらの感染症のうち、ワクチンによって予防が可能なものはほんのわずかしかありません。ワクチンをもっと有効に活用することで感染症のリスクを減らす。そのことを願い、田辺三菱製薬は日々活動しています。

### 「ワクチン.net」の取り組み

<http://www.wakuchin.net/>

「ワクチン.net」では、全国の市区町村や保育所・幼稚園、中学・高校などで、予防接種の啓発活動に携わられている方々を対象に、ワクチン啓発ツールをご用意しています。啓発ツールは、ご注文いただければ無料でお届けしています。また、印刷用のPDFをダウンロードして自由にお使いいただくことも可能となっています。



ワクチン.net

### ■啓発ツール活用事例



学校での事例



地方自治体での事例

# 信頼性保証

医薬品が適正使用されるためには有効性と安全性に関する情報が確保されなければなりません。田辺三菱製薬では、研究開発から市販後まで一貫した信頼性保証体制を構築し、患者さんに当社の医薬品を適正にご使用いただけるよう努めています。

## 医薬品の信頼性保証体制

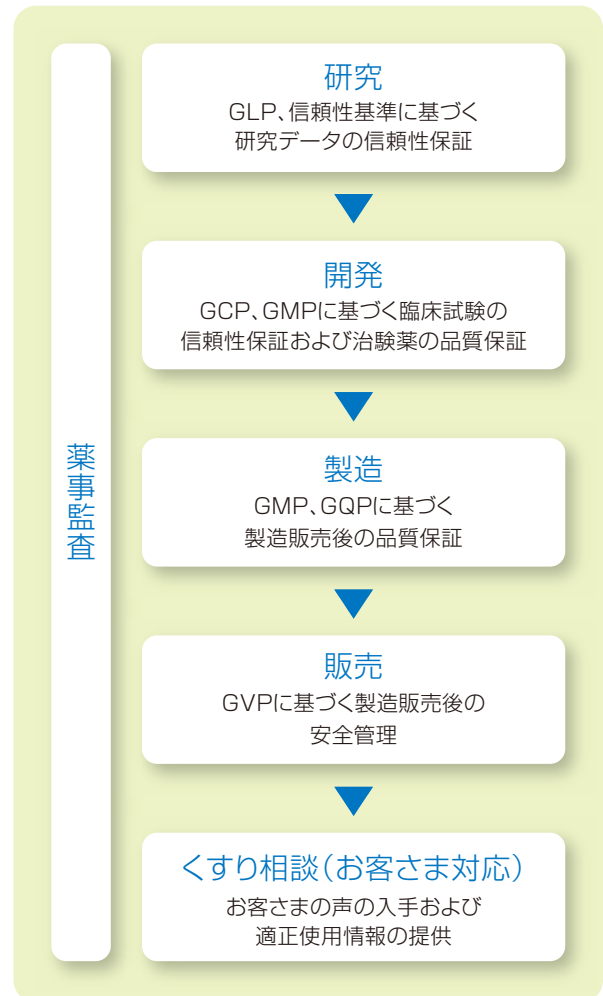
田辺三菱製薬は、安全管理において、治験から市販後までの安全性情報の評価を同一の組織で実施するのみならず、研究開発時に明らかになった重要なリスクを十分に検討し、市販後においてそれらを最小化する取り組みを行なっています。

また、品質保証においては、治験薬の生産フェーズへの移管から始まるライフサイクル全期間に渡り、ICH Q10に示された品質マネジメントシステムの構築を着実に進めています。さらに、薬事監査においては、いわゆるGXPに関わる監査の他に、研究初期から市販後のくすり相談業務を含めた幅広い領域の監査によりデータの信頼性確保に取り組んでいます。

## グローバルな信頼性保証体制の確立

患者さんの安全のために、医薬品の品質や安全性に関する情報は世界中で共有すべき時代になっています。このため、田辺三菱製薬では国内外の法律や基準をタイムリーに遵守できる、グローバルな信頼性保証体制の強化を進めています。この一環として、海外自販に対する安全監視体制の整備・強化、諸外国における治験薬や製造販売後の製品の品質と安全性の確保、外国で製造される原薬や製剤の品質管理、および国内外で実施される研究や開発のデータの信頼性確保などを、欧州、米国、アジアのグループ会社や提携会社などと連携をとって遂行しています。

## ■ 医薬品の信頼性保証体制



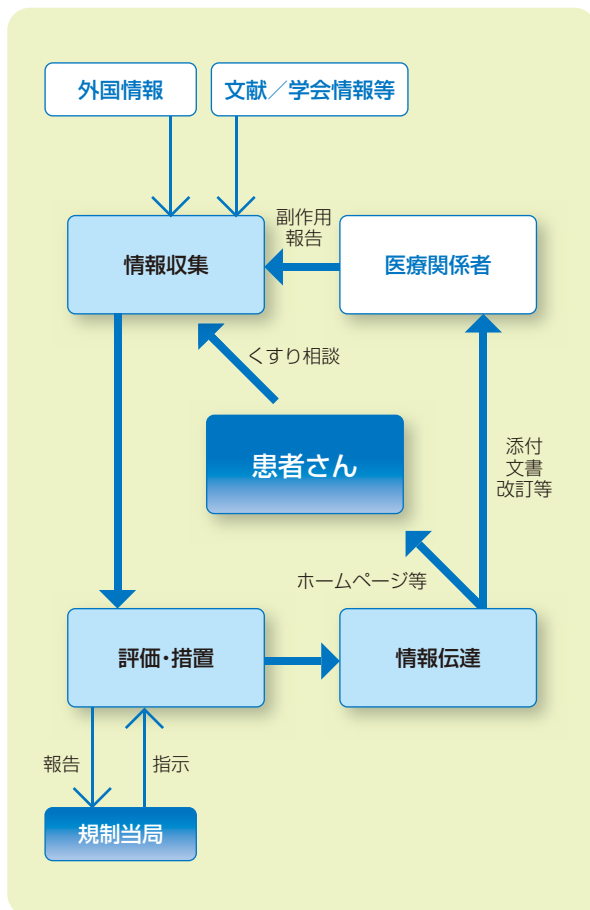


### 副作用・感染症情報を入手した場合の対応

医薬品をご使用になられた患者さんに起こった副作用・感染症の情報については、MRによる医療機関からの安全性情報収集や、患者さんやそのご家族からのくすり相談センターへのお問い合わせなどから入手しています。外国で起きた副作用・感染症情報は、グループ会社や提携会社を通じて入手しています。

これらの情報は法令に基づき厚生労働大臣に報告するとともに、発現の状況に応じて規制当局と相談・協議して添付文書改訂などの安全確保措置を講じています。決定した安全確保措置はMRを介して医療機関に伝達するとともに、ホームページに掲載するなどして、医薬品の適正な使用を推進し、患者さんの副作用・感染症の発現予防につなげています。

#### ■副作用・感染症情報の対応経路



### 製造販売後調査の実施について

医薬品は厳密な臨床試験（治験）を経て厚生労働省から製造販売承認を得たのち、販売を開始しますが、治験では、患者さんの年齢や条件が限定されていること、症例数も少ないこと、また、肝臓や腎臓の重い疾患を有する方や小児や妊産婦では使用されないことから、安全性のプロファイルがまだ十分には明確になっていない可能性があります。

そこで、新発売医薬品について製造販売後調査を実施し、数千例規模のデータを集めることによって稀な副作用を把握したり、高齢者やさまざまな合併症を持つ患者さんなどでの安全性や有効性の特徴を明確にして、より安全かつ有効に医薬品を使用いただくことに役立っています。

#### ■製造販売後調査の位置づけ



### 医薬品の品質確保

品質保証部では、医薬品の品質確保のため、疾患の克服を切実に願っておられる患者さんへの安全を第一に考えた品質保証を実践しています。「医薬品等の品質管理基準 (GQP)」や「田辺三菱製薬グループ品質ポリシー」に基づき、製造所の管理監督、品質不良への対応などの品質保証に関わる業務を日常的に実施し、当社グループ工場における品質保証活動を推進しています。

さらに、委託先の製造業者や原材料調達先との協働を通じてさらなる品質保証レベルの向上をめざした取り組みを行っています。また、メドウェイ問題や品質管理問題の再発防止措置を着実に実施し、患者さんが安心して医薬品を使っていたただけるように今後も最善の努力を続けていきます。

### 医薬品・安全性教育の実施

田辺三菱製薬は、2008年度より、医薬品事業に関わるグループ会社の役員および全従業員の「医薬品の安全性」に対する意識向上を目的として、医薬品の安全性教育を実施しています。

従業員を対象とした「医薬品・安全性教育研修」では、2010年度は「医薬品の安全対策」をテーマに取り上げ、医薬品による健康被害の教訓や、個人が取り扱う情報やデータの信頼性確保に真摯に取り組むこと、

問題解決にあたっては周囲と協力することが重要であることを共有しました。この研修は、のべ96回実施し、8,280名が受講しました。

また、役員・執行役員等の経営層を対象とした「トップセミナー」では外部講師を招聘し、「過去の医薬品等の健康被害から何を学ぶかー医薬品製造販売業者の社会的責任ー」をテーマに研修を実施しました。



医薬品・安全性教育研修



トップセミナー

### 医薬品の安全性、有効性を確保するためにー信頼性保証本部ー

医薬品による副作用の発現を完全になくすことはできません。また、重い病気の治療のためには、副作用が起きる可能性があっても使用せざるを得ない場合もあり、薬のベネフィット(有効性)とリスク(安全性)を勘案して使用するという考え方も社会に浸透しつつあります。

このように、医薬品の使用にあたっては、ベネフィットだけでなくリスクにも目を向けなければなりません。信頼性保証本

部では、患者さんに医薬品を適正に使っていただくために、医薬品の安全性や有効性に係わる情報を、国内はもとより国外を含む多様な情報源を通じて入手し評価しています。さらに、蓄積された安全性情報を統計学的手法を含むさまざまな方法で解析することにより、潜在的なリスクをいち早く掌握し、予防原則に則った的確な安全対策を講じることなどを通じて、医薬品の安全性・有効性の確保に最大限に努めています。



# 高品質な医薬品を 安定的に提供するために

医薬品を患者さんに安心してご使用いただくためには、医薬品の製造工程から試験検査、出荷判定に至るまでの過程で、製造管理や品質管理、衛生管理における厳格な基準をクリアしなければなりません。田辺三菱製薬グループでは、世界の人々に高品質な医薬品を安定的に供給するため、グローバルな生産体制を構築し、厳しい管理体制のもとで医薬品の製造を行っています。

### 医薬品の製造プロセス

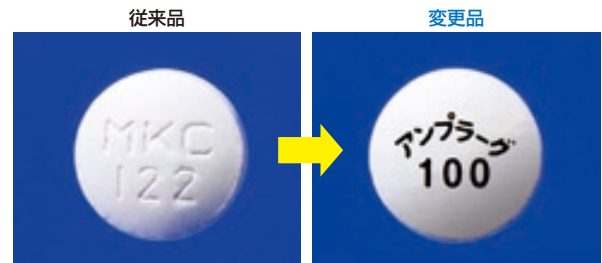
田辺三菱製薬は、高品質な医薬品を製造・供給し、皆様に安心してご使用いただくために、より一層の品質確保に努めております。このため、新薬の開発段階から、高品質、安定供給および低コストに向けた生産技術の開発を、CMC本部とグループ製造所との連携により行っております。

当社グループ工場（国内12カ所、海外5カ所）および製造委託先工場において、グローバルな生産体制を構築し、世界のさまざまな人々に製品を供給しています。医薬品の製造にあたっては、国内外から調達した原材料の受入試験にはじまり、原薬・製剤製造ならびに試験検査を医薬品の製造および品質管理基準（GMP）に則り、長年培った独自の技術・ノウハウに基づいて行っています。

### 医療過誤防止への取り組み

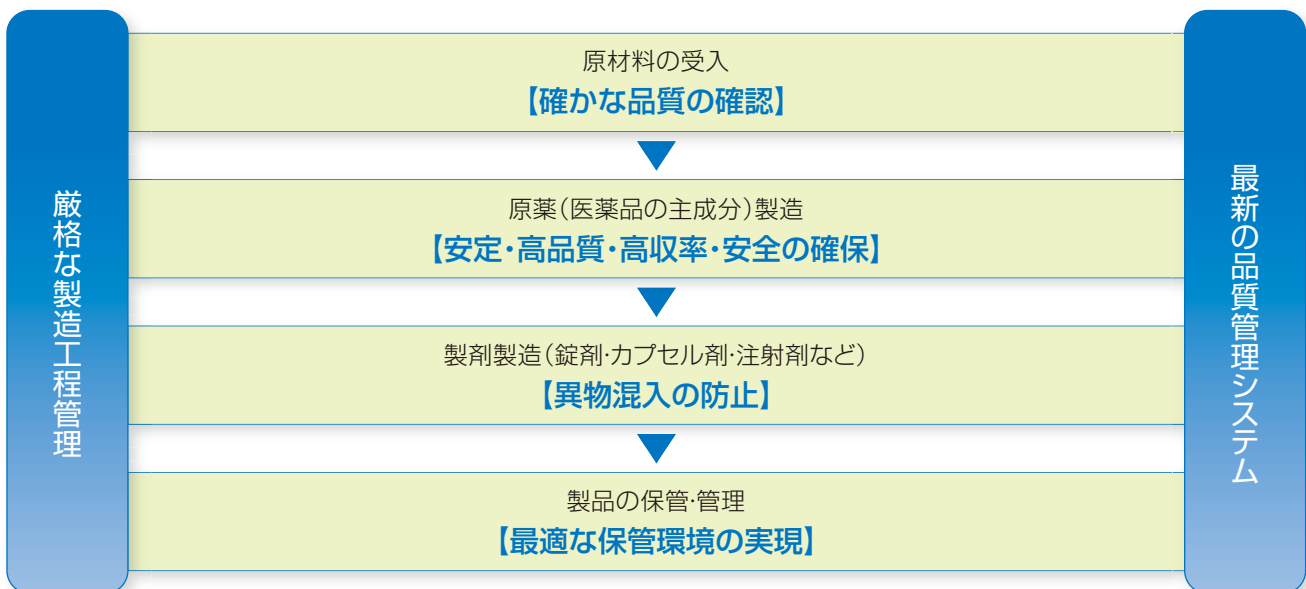
医療過誤防止への取り組みの一例として、アンブラー錠（慢性の血流障害による症状の改善薬）の錠剤表面に製品名を表示するように変更いたしました。医療現場における錠剤の取り違いなどの調剤過誤の防止、調剤業務の効率化が見込まれるとともに、患者さんによる服用ミスの防止が期待されます。

また、医療事故防止対策に関わる販売名変更についても、適宜推進しており、2010年3月末までに、200品目以上の販売名変更を実施し、剤型および有効成分の含量（又は濃度等）の適正化を行いました。



錠剤に製品名を表示した「アンブラー錠」

### 原料～製品の流れ



## 調達管理

田辺三菱製薬は、「購買規則」を制定し、調達先との公平、公正、透明な取引を購買活動の基本方針としています。

さらに、品質の確保、安定した調達の実現のため、グローバルかつオープンに調達先を求めるとともに、公平、公正を期すため、調達先選定基準に基づき、調達先の厳正な評価・選定を行っています。

## 購買コンプライアンス

「購買コンプライアンス行動規範」を策定し、購買に携わる全従業員が遵守することによって、田辺三菱製薬グループにおける購買コンプライアンスの確立に取り組んでいます。

### 購買 コンプライアンス 行動規範

- 1 自覚・責任
- 2 公平・公正・誠実
- 3 遵法精神
- 4 節度
- 5 透明性・開放性

## アジアにおける生産体制

田辺三菱製薬グループは、アジア地域において、中国、韓国、台湾、インドネシアに製造・販売拠点を置き、各国の品質基準、市場ニーズにあった製品を提供しています。

今後もさらなる発展が期待される中国では、天津田辺製薬(天津市)が経口剤を、三菱製薬(広州)(広州市)が輸液を製造しています。また、三菱 タナベ ファーマ コリア(韓国)と台湾田辺製薬では自国への供給以外に日本向け製品を扱っており、その品質の維持・向上に努めています。さらに、タナベ インドネシアは、自国のみならず、東南アジア諸国への製造拠点としての役割も担っています。



天津田辺製薬で生産している「ヘルベッサー」

## 医薬品を安心してご使用いただくために—天津田辺製薬—

天津田辺製薬は、田辺三菱製薬グループの一員として、ヘルベッサーやタナトリル、セレキノンなど、田辺三菱製薬のオリジナル製品を中国の患者さんにお届けしています。

近年各国でGMP基準が厳格化される中、中国でも2011年3月に新GMPが施行され、ソフト・ハードの両面で欧米のGMPに相当するレベルが求められるようになりました。天津田辺製薬では、工場改修、GMP基準書の見直し、全体教育などを実施することで、新GMPに対応できるよう全社体制の取り組みを進めています。

その他にも、製薬企業としての社会的責任を自覚すべく、社内アンケートの実施やホットライン制度の活用などを通じ、コンプライアンスの推進に努めています。

「高品質な製品を安定的に患者の皆様にお届けすることで、

中国の人々の健康、さらには世界の人々の健康に貢献し、社会から信頼される企業となる」ことが天津田辺製薬の目標です。

「創造、先取、挑戦」を合言葉に、この目標に向けた挑戦を日々続けています。

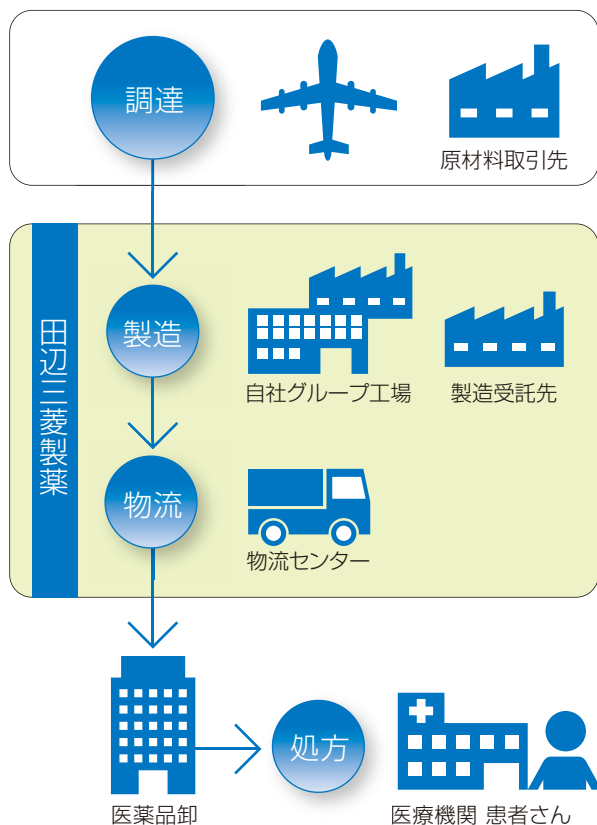


天津田辺製薬有限公司 生産本部スタッフ

# 供給体制

必要な時に必要な患者さんの元へ確実にお届けするよう全力を尽くすことは、製薬会社としての務めです。田辺三菱製薬グループは、災害をはじめとする不測の事態にも、患者さんに医薬品を安定的にお届けできるよう供給体制を整えています。

## ■ 医薬品のサプライチェーン



## 物流における安定供給のための取り組み

田辺三菱製薬は、自然災害、テロやパンデミックといった事態が発生した場合にも、「医薬品製造業としての社会的責任」と「企業としての事業継続の責任」を果たすために、リスク管理や事業継続管理に基づいた「安全在庫」の概念を取り入れています。

中でも、緊急性が高く代替品のない品目については、市場での欠品がただちに患者さんの生命に結びつくため、これらの医薬品を重要医薬品と位置づけ、在庫量には特別な配慮をしています。

2011年3月11日に起きた東日本大震災では、その事前対策により、医薬品を欠品することなく、安定供給の責務を果たしました。

## 在庫管理・品質管理の取り組み

物流センターでは、「高品質な医薬品を安定的に患者さんにお届けする」ことを念頭に、在庫管理・品質管理・輸送管理・リスク管理を実施しています。

在庫管理では、在庫管理システムにより、品目別・ロット別での製品保管と出荷管理を行い、迅速かつ安定した供給に努めています。

品質管理では、人の入出管理、倉庫温度管理の徹底や定期的な清掃の他、防虫防鼠対策や昆虫相調査を実施することで、物流過程における品質保持に努めています。

輸送管理では、輸送品質の保持および汚破損、盗難、紛失、誤配、遅配時の対応(防止)について運送業者と取り決めを行い、定期監査によってその遵守状況を確認しています。

リスク管理では、東西2極体制を採用していたことから、東日本大震災の影響により、東日本物流センターが被災し、医薬品が出荷できなくなった際も、西日本物流センターからの代替出荷を実施することにより、全国の医薬品卸からのオーダーにも遅延なく、供給を継続することができました。

## 医薬品の輸出

田辺三菱製薬は、2010年度に約50カ国へ自社医薬品を輸出しました。医薬品の輸出には、通関に関する法律に従って輸出貨物が適法かの審査を受け、輸出許可を得る手続きが必要です。

また、輸出先国の薬事規制、輸出管理および危険物の国際輸送に関わる規制なども受けるため、これらを遵守し、適正な輸出に努めています。これからも、世界中の患者さんに医薬品を安定供給できるよう、輸出体制のより一層の充実を図っていきます。

## 電子タグを用いた医薬品認証および医療従事者の負担軽減に関する実証実験

田辺三菱製薬は、平成22年度総務省委託事業である「ユビキタス健康医療技術推進事業 医薬品トレーサビリティモデルシステムに関わる実証実験」を受諾し、実証実験を行いました。



電子タグによる  
入庫時の一括読取



医薬品保管位置をLED使用  
電子タグ点灯で通知



服薬履歴を電子情報で記録・保存

※ていせうかい 丁酉会薬局で協力のもと実証実験

保険薬局において電子タグを活用したトレーサビリティ管理システムを構築し、入庫時の複数医薬品の一括読取、調剤時での医薬品保管位置の通知などの実験を行いました。また、安全なネットワークを用いて、調剤実績情報を医療機関にフィードバックすることで、服薬履歴を電子情報で記録・保存することが可能となりました。このシステムの活用によって保険薬局業務を簡素化・効率化でき、医薬品認証機能を強化することで医療過誤も防止できることが確認できました。

東日本大震災では、紙カルテや電子カルテが機能せず、病名や服薬履歴などが搬送先では確認できないことが問題となりました。患者さんの服薬情報を一時的にでも安全なネットワーク上に保存することの重要性が改めて明らかになりました。

## 安全保障輸出管理

安全保障輸出管理とは、国外に輸出される製品や技術が軍事用途などに不正に使用されるのを防ぐための仕組みです。田辺三菱製薬では、2008年度より代表取締役を最高責任者とした管理体制を構築し、環境安全部に設置した輸出管理事務局において、輸出する製品や技術の規制品該当判定や取引先審査を実施する一方、社内への法改正などの周知、教育、輸出担当部署への実地監査などを行い、制度の適切な運用と管理体制の実効性を確認しています。

さらに、当社は、三菱ケミカルホールディングスの事業会社間で輸出管理に関して情報を交換し、より確実な体制となるよう努めています。



# 情報提供活動を通じて、 医薬品の適正使用を実現するために

医薬品が適正に使用されるためには、有効性や安全性に関するさまざまな情報を医療関係者に確実に提供することが不可欠です。田辺三菱製薬グループでは、約2,200名のMRが必要な医薬品情報を迅速かつ正確に医療現場にお届けするとともに、医薬品の使用後に得られた有効性や安全性に関する情報を収集することで、医薬品の適正使用に努めています。



## MRを通じた医療機関への 情報提供と情報収集

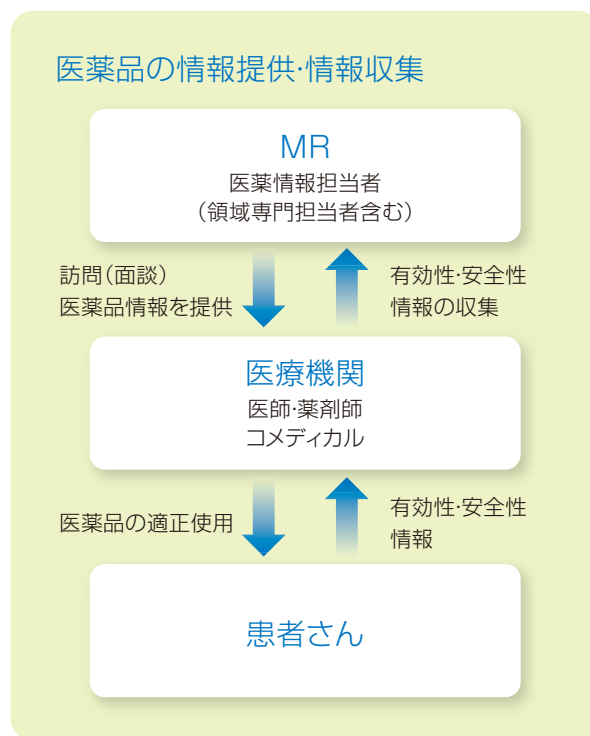
「医薬品を通じて患者さんの健康のお役に立ちたい」、この思いを実現するためには、医師や薬剤師など、医療関係者に有効性や安全性に関するさまざまな情報を提供することが不可欠となります。

田辺三菱製薬グループは約2,200名のMR（領域専門担当者含む）を有し、全国の医療機関において、自社製品の良い面ばかりでなく、副作用情報などの学術的情報を提供し、医薬品が適正に使用されるよう日々努めるとともに、研究開発の段階では得られなかった有効性や安全性などの情報の収集や、その結果に基づいた評価などを医療機関に伝達するという役割を担っています。また、より専門性の高い情報提供・収集が必要な医薬品については、領域専門担当者を設置しており、MRIは医療関係者と領域専門担当者を効率よく結び付ける要としての役割も担っています。

こうしたMRの活動をバックアップするために、医療関係者向け会員制ホームページ「Medical View Point」により、医療関係者が24時間いつでも、製品や関連疾患情報を入手できるシステムを導入しています。また、医療関係者のご要望に応じて、診療に関する情報などをメールマガジンで配信しています。



医療関係者向け会員制ホームページ「Medical View Point」



## 新薬を安全にご使用いただくために MRが果たす役割

医薬品が新発売されると、治験時に比べて使用される患者さんの数が増加するとともに、患者さんの使用状況もさまざまであることから、治験段階でわからなかった重篤な副作用が発現することがあります。

当社は、MRを通じて自発報告や製造販売後調査で日常的に安全性情報を収集していますが、特に新発売した医薬品では、市販直後調査として、最初の6ヶ月間について慎重な使用を促すとともに重篤な副作用の発生を迅速に収集することが求められています。その収集した情報は適切な安全対策の実施へと繋がります。その際、MRIには安全対策に関わる情報を医療機関へ提供する役割があります。

2011年以降、田辺三菱製薬は複数の新薬を発売する予定です。新薬を必要とする患者さんに、より安全にご使用いただくために、MRが果たす役割は非常に大きいと言えます。

### 海外現地法人による情報提供活動

田辺三菱製薬は、海外展開する医薬品を適正にご使用いただくため、海外現地法人を通じた情報提供活動にも取り組んでいます。

欧米地域では、米国・ニュージャージー州ウォレンとドイツ・デュッセルドルフに拠点を置き、米国では将来の展開製品に関する上市準備活動を、ドイツでは医療用医薬品のマーケティング・販売活動を展開しています。販売活動に携わるMRには医師・薬剤師と同じ目線で議論できる豊富な知識・情報・スキルが求められることから、月に一度、製品関連情報や関連諸法規などに関する教育訓練を行い、情報提供活動の資質向上に努めています。また、製品と関連疾患に関する最新情報を医師・薬剤師にダイレクトレターの形式で定期的

に発信し、MRによる情報提供活動を補完しています。

アジア地域では、中国・韓国・台湾・インドネシアのグループ会社を通じて、医療関係者の方々にさまざまな有益な情報を提供しています。具体的には、医療機関・医師への訪問、学術大会への参加、オピニオンリーダーとの意見交換、学術研究の実施、情報資料の作成・配布など、医療関係者の方々の日常診療下における活動支援を行っています。

当社海外現地法人のMRは、医療の高度化や多様性に対応する幅広い知識を有する医薬品専門家集団として、医師・薬剤師から高い信頼を得ています。

当社グループは、海外での情報提供活動において、今後も医薬情報の質向上を図り、世界の人々の健康に貢献していきます。

#### 「使命感と誇り」を持った情報提供活動—ミツビシ ファーマ ドイツ—

現在、私はドイツ国内のMRを統括するチームリーダーというポジションにあり、アルガトロバン販売の中核として欧州医薬品事業に貢献すべく、日々努力を重ねています。相手の立場で物事を考え、チームとしての輪を尊重しつつ、常にチャレンジ精神を持ちながら営業活動を行っています。

また、日頃から製品情報や学術知識を深く習得するとともに、田辺三菱製薬の企業行動憲章に則った「使命感と誇り」を持って医療関係者とコミュニケーションを取り、常に医薬

品のプロフェッショナルであることを心がけています。

ミツビシ ファーマ ドイツ  
セールス&マーケティング部  
フィールドサービスマネジャー  
Dr. トビアス・シーア



#### 患者さん、医療関係者に貢献するために—台湾田辺製薬／台田薬品—

台湾田辺製薬および台田薬品の営業活動では、次の3つの軸を基本に、患者さん、そして医療関係者に貢献できるよう取り組んでいます。

**Professional (専門性)**—絶えず専門性の強化に努めながら、医療関係者に対して医薬品の正確な情報提供を行うべく学術的なアプローチを展開しています。

**Accountability (責任感)**—責任感と奉仕の心を堅持しながら、患者さんのために、そして医療関係者のニーズに応えるべくご意見に耳を傾け、活動に取り組んでいます。

**Integration (集約)**—営業支援システムを活用し、MRがその役割や使命をしっかりと果たすことにより、医療関係者に信頼されることをめざしています。

台湾田辺製薬股份有限公司／  
台田薬品股份有限公司  
営業本部長  
朱 宏祥

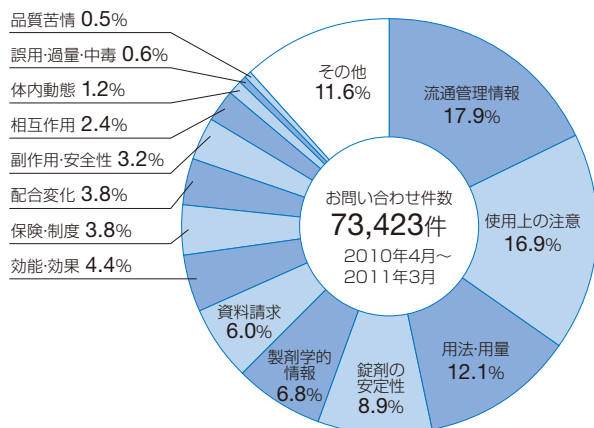


## 「くすり相談センター」での情報提供

患者さんや一般消費者、医療従事者（医師、薬剤師他）など、お客さまからのお問い合わせに直接応える窓口として「くすり相談センター」を設置しています。特に患者さんにとっては、唯一の企業情報提供窓口であり、製品を適正にご使用いただくため、迅速かつ丁寧、そしてわかりやすい情報提供を心がけています。また、お問い合わせの中から得られた安全性情報や品質情報を関連部門へ遅滞なく伝え、信頼性確保に寄与することも重要な役目です。

くすり相談センターでは、医療行為に踏み込まないように留意しつつ、承認内容、客観的事実・データ、科学的根拠に基づき製品を適正にご使用いただけるよう情報提供しています。

### ■くすり相談センターへのお問い合わせ内容



### くすり相談センターに寄せられたお問い合わせの具体例

- この製品の使用期限はいつまでですか？【流通管理情報】
- 妊娠に気づきましたが、この薬を飲んでも大丈夫でしょうか？【使用上の注意】
- 透析患者さんへの投与量(用量調整)は？【用法・用量】
- 医師から粉碎の指示が出ていますが、粉碎してもよいですか？【製剤の安定性】
- 停電で電源が切れた冷蔵庫に保管されたワクチンは使用可能ですか？【製剤の安定性】
- 販売中止品の代替品はありますか？【製剤学的情報】
- 作用発現時間と効果持続時間は？【効能・効果】
- この薬は一度に長期間の処方認められていますか？【保険・制度】
- 処方されている薬を海外旅行に持っていくことはできますか？【その他】

## ジェネリック事業における情報提供活動

田辺三菱製薬は、田辺製薬販売を通じて、「リライアブル ジェネリック」をスローガンに、高品質なジェネリック医薬品を日本全国に安定供給しています。田辺製薬販売では、ジェネリック医薬品専任MRIに経験豊かなスタッフを配置し、医療現場での確かな情報提供を行っています。また、製品の最新情報を必要な時に医療関係者に提供できるよう、機能的なホームページを開設しています。

## セルフメディケーションの実践に向けて

皮膚の悩みを抱える多くの方が、自分の症状を正しく知り、少しでも早く治せるように、2009年度より「Think 皮膚トラブル」をテーマに、さまざまな啓発活動を行っています。

この活動の一環として、皮膚トラブルの原因・症状・治療に関する情報を、テレビCMや雑誌、Webサイトなどを通じて皆様にお届けしています。



ヒフノコト サイト

## ウェブサイトを通じた情報発信

田辺三菱製薬は、ウェブサイトを通じて当社製品に関連した疾病情報などを提供しています。現在、「関節リウマチ」「クローン病」「潰瘍性大腸炎」「乾癬」「ワクチン」「脳梗塞」「睡眠障害」「痔疾」「肝機能」に関する健康支援サイトを開設しており、その病気の症状や診断、治療などをわかりやすく解説しています。



潰瘍性大腸炎(UC)フロンティア

# 田辺三菱製薬からのご報告「品質管理問題について」

当社グループ会社である田辺三菱製薬工場の足利工場において、医薬品の品質試験の一部不実施が判明しました。製薬企業として社会からの信頼を大きく損なう事態を引き起こしたことを深く反省するとともに、患者様、医療関係者をはじめとする多くの皆様方にご迷惑とご心配をおかけいたしましたことに心よりお詫び申し上げます。

## 本問題の経緯

2011年1月、田辺三菱製薬工場の足利工場において、当該担当者が製品出荷に係る品質試験の一部を2007年頃から2010年春頃にかけて実施していなかったことが明らかになりました。当社と田辺三菱製薬工場はただちに、厚生労働省ならびに大阪府、栃木県に詳細報告を行うとともに、対象ロットについて自主回収することを決定しました。また、回収対象の全ロットについて、参考品を用いた再試験を実施し、品質に問題がないことを確認しました。1月26日に記者会見を行い、本問題について陳謝するとともに、事実関係の調査と原因究明の徹底、問題点の改善・是正にすみやかに取り組み、製薬企業として社会からの信頼回復に向けて再出発することを公表しました。

## 危機管理委員会の設置

当社は、本問題に対する危機管理対応の助言、原因究明と再発防止策の提言を目的として、有識者による「品質管理問題に関わる危機管理委員会」を1月26日に設置しました。一方、当社グループ製品の品質総点検や顧客対応、行政当局対応など、当面の危機対応を実行する社内組織として、「緊急対策委員会」を設置しました。

危機管理委員会は、1月26日から4月

25日にかけて計11回開催されました。この間、委員会は弁護士チームによる調査を指示するとともに、当社グループ製品の品質総点検に係る提言を行いました。また、4月20日には本問題の原因究明および再発防止策に関する提言を当社取締役会へご報告いただきました。

## 田辺三菱製薬グループの品質総点検

当社グループ製品の品質に対する疑念や不安を払拭するため、品質総点検として、当社グループの各製造所における品質試験実施の検証を目的に試験記録と補助記録類を徹底調査するとともに、品質管理業務における問題行為についての自主申告および自主報告を実施しました。

記録類の調査では、ほとんどの試験項目が試験実施の裏付けとなる記録類（生データ）が自動的に打ち出される、あるいは「LIMS（試験管理システム：Laboratory Information Management System）」に直接取り込まれる分析機器を用いて行われており、試験実施を確認できました。また、生データが出力されない試験項目についても、試薬の調整記録等の補助記録類から試験実施を確認しました。その結果、一部の製造所では補助記録類の記録漏れなどが見られましたが、すべての製造所において、試験不実施を疑わせる客観的事実はありませんでした。

一方、自主申告および自主報告による調査では、製品の一部ロットで、性能が低下した試薬を用いて試験していたことが判明しました。なお、参考品を用いた品質試験を実施し、品質に問題がないことを確認しております。

これら品質総点検の取り組みについては、当局に報告するとともに、危機管理委員会へ報告し検証いただきました。

## メドウェイ問題との関係

当社は、2010年4月、メドウェイ問題によって、厚生労働省より薬事法違反による業務停止処分と改善命令を受けました。当社は、改善命令に従い、同年6月に厚生労働省に業務改善計画を提出し、グループをあげてその推進に努めておりました。

品質管理問題は、メドウェイ問題を契機とする一連の業務改善、再発防止策を全社的に展開する過程で表面化しました。当社は、両問題の共通点と相違点を考慮したうえで、メドウェイ問題の業務改善計画の実効性をより高める形で充実・強化するとともに、グループ全体の品質管理業務に関わる問題として幅広い視野からみて、効果的な再発防止策を追加していくことが、本問題の解決にあたって最も重要であると認識しています。

## 信頼回復に向けた是正措置および再発防止策

2011年4月27日、当社は、品質総点検の結果および危機管理委員会よりの提言を受けて「品質問題に係る総括報告書」をとりまとめました。その報告書の中から、信頼回復に向けた是正措置および再発防止策について、以下のとおり、報告いたします。

### 1. 業務管理の視点からの取り組み

#### ① 教育体制の強化

メドウェイ問題を受け、グループ全体で品質管理に関する教育研修を強化してきましたが、足利工場では改めて品質試験に関する基本的な遵守事項を再徹底するため、これまでの教育研修を継続して行います。

#### ② 組織・体制の見直し

##### ● 管理体制の強化

足利工場の品質管理部における管理職の増

員と交代を行いました。また、田辺三菱製薬工場全体でも、人材の確保、育成を含め早期に対応を図ります。

#### ● 試験担当者の多能工化推進

足利工場の品質管理部内で、一人もしくは少数の担当者しか実施できない試験項目については、二人以上の担当者が試験業務を実施できる相互チェック体制にしました。

#### ● 要員の確保と配置の適正化

足利工場に限らず、製造所の品質管理部全体の試験業務量および各試験担当者の技量、資質を的確に把握し、それに応じた要員配置を実施します。

#### ③ 職場コミュニケーションの改善

足利工場の品質管理部において、管理職が毎日試験室を巡回し、試験担当者とコミュニケーションを図るとともに、各担当者の試験実施状況の監督を徹底しました。また、朝礼や月例会に加え、週1回の連絡会を導入しました。

#### ④ 人事ローテーション、人事交流による相互理解促進

田辺三菱製薬工場の5つの製造所をまたがっての人事ローテーションや人事交流を活性化させ、相互理解を推進します。また、田辺三菱製薬との人事ローテーションについても拡大していきます。

## 2. 品質試験の視点からの取り組み

#### ① 品質試験の信頼性向上に向けた施策の立案・推進

##### ● 応急的な再発防止策

生データの残らない試験項目については、試験担当者と試験実施観察者のダブルチェック体制に変更しました。

##### ● 恒常的な再発防止策

補助記録についても試験判定時に照合・点検するとともに、これら補助記録類および試験作業記録書(ワークシート)をLIMSに組み込み、試験の不実施を防止します。

#### ② 品質管理業務の見直しとルールの改善

##### ● ライン部長の役割分担・責任の明確化

職制、リーダー、担当者の責任と権限に基づき業務を再配分し、適正化を図るとともに、必要に応じて要員を見直します。

##### ● 業務負荷の軽減

品質管理に係るすべての業務の棚卸を実施

し、重複する業務の見直しの他、必要に応じてグループ内外への業務委託を行います。

##### ● 試験内容の適正化と標準化

品質管理業務全般について、標準作業手順と定めるべき内容と水準の見直しを行います。また、必要に応じて試験項目の一部省略や変更などの措置を必要な手続きを踏んで行き、業務の効率化を図ります。

##### ● 変更管理、逸脱処理の適正運用

栃木県から足利工場に対してご指導いただいたGMP上の変更管理、逸脱処理の適正運用の再徹底について、グループ全体の製造所に徹底、遵守します。

## 3. 田辺三菱製薬グループ全体の経営レベルでの取り組み

#### ① 品質管理業務の社内体制の見直し

当社グループガバナンスの再検証、特に製造機能に関する事業運営実態について、経営管理面、技術面、信頼性保証面など多面的に、当社と田辺三菱製薬工場との役割分担や連携を見直し、最適化を図ります。

#### ② コンプライアンス推進体制の強化

当社グループのコンプライアンス推進体制を統括するチーフ・コンプライアンス・オフィサーには、代表取締役である加賀邦明を任命しました。また、その管轄下に「内部統制・コンプライアンス推進部」を設置し、グループ各部門や子会社のコンプライアンス推進体制との連携強化、日常的な対応力強化を図ります。

#### ③ 業務改善のフォローアップ体制の強化

本問題の発生により、メドウェイ問題の業務改善計画の取り組みを加速し、その実効性を高めるため、社長自らが統括する社内機関「メドウェイ業務改善計画フォローアップ委員会」、この取り組み状況を第三者的な立場から検証する「メドウェイ問題・品質管理問題に係わる信頼回復に向けた社外委員会」、これら社内外の委員会の事務局「メドウェイ問題対策室」の機能を充実、強化し、本問題における施策も含め強力に推進できる体制を整備しました。

#### ④ 組織人事的対応と社会的責任の明確化

経営の透明化を図る手段の一つとして、社外取締役を招聘しました。また、本問題の直接責任部門の長であった信頼性保証本部長と田辺三菱製薬工場社長の交代人事を行いました。なお、本問題の当該担当者および関係者に対しても厳正な懲戒処分を実施しました。

## 田辺三菱製薬工場 足利工場に対する業務停止ならびに当社に対する改善命令

田辺三菱製薬工場の足利工場は、2011年7月19日、栃木県より、GMP省令違反により、薬事法第75条第1項に基づく業務停止10日間(2011年7月20日～7月29日)を命ぜられました。また、当社は、同日、厚生労働大臣より、GQP省令違反により、GQPの逸脱に係る業務の運営について、薬事法第72条の4第1項に基づく改善命令を受けました。

当社は、2010年6月、メドウェイ問題に係る改善計画を提出し再発防止策を推進してきたものの、なお再発防止の取り組みは不十分であるとされ、改善計画に基づく再発防止策をさらに実効性のあるものに見直しを行い、その結果を厚生労働省に報告するよう命じられました。当社は、改善計画に基づく再発防止策を見直し、2011年8月に厚生労働省に提出いたしました。その進捗状況については、関係当局に定期的に報告してまいります。また、社外委員会に取り組み状況を報告し、メドウェイ問題に加えて、品質管理問題に係る改善計画の進捗状況についても、社外からの目で助言や評価をいただきます。なお、社外委員会への報告およびそこでの検証の状況につきましては、当社ホームページで公表いたします。

当社は、再び同様の事態を起こすことのないよう、改めて業務改善計画に基づく再発防止策を徹底し、当社グループをあげて社会からの信頼回復に努めてまいります。

# マネジメント

田辺三菱製薬では、広く社会から信頼される企業をめざし、透明性・客観性の高いコーポレート・ガバナンス体制の構築に努めています。

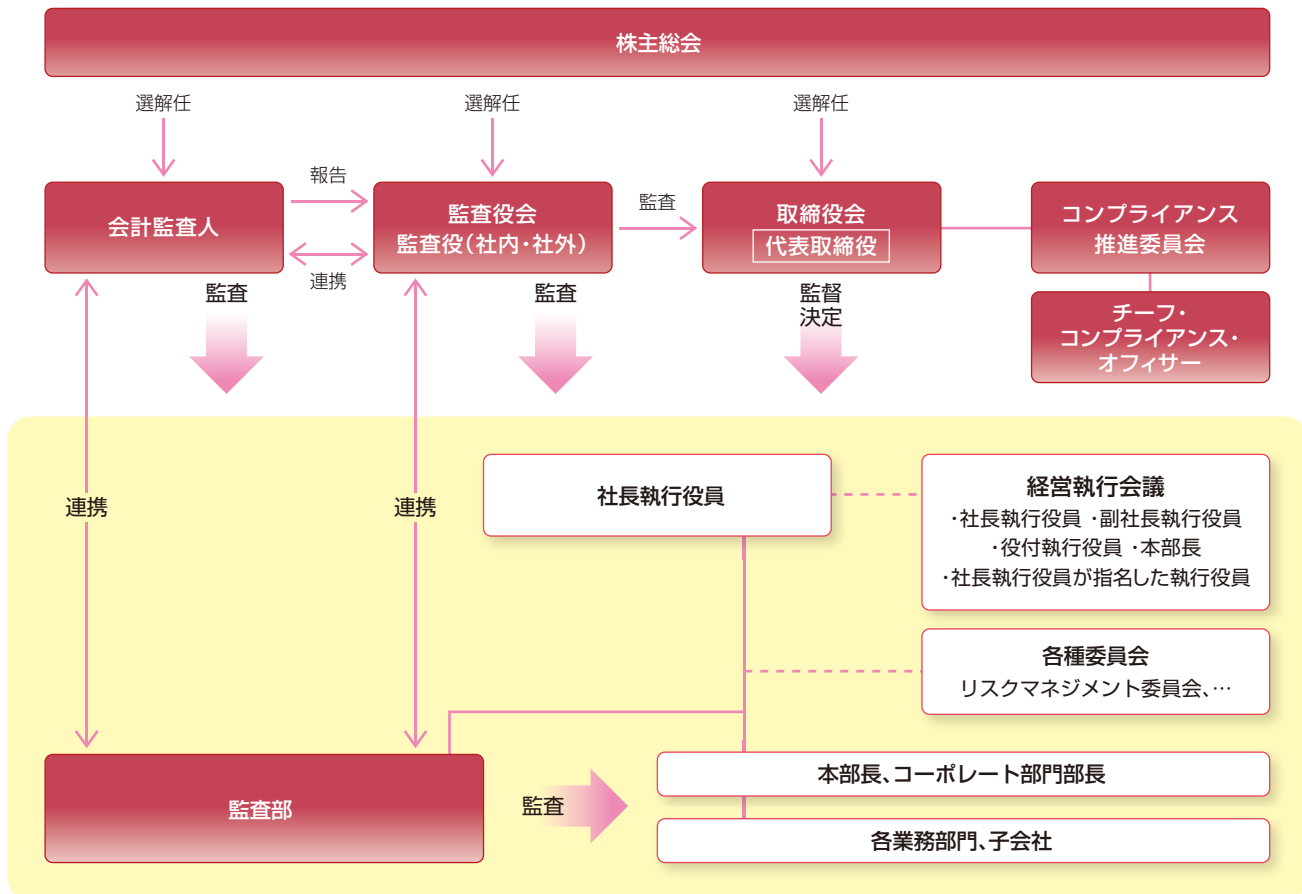
また、内部統制システムにより、コンプライアンス意識の向上と、企業を取りまくリスクの管理体制を整備しています。

## コーポレート・ガバナンス

### 業務執行体制

田辺三菱製薬は、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を明確化するために執行役員制度を導入しています。社長執行役員、常務執行役員および社長執行役員が指名する執行役員等で構成される「経営執行会議」において、経営に関する基本方針、戦略を討議するとともに、経営全般の業務執行に関する重要事項を協議しています。なお、経営執行会議で協議された事項のうち重要なものについては、取締役会に付議し、決定しています。これにより意思決定の迅速化と効率化を図っています。なお、経営執行会議は原則として月2回、取締役会は原則として月1回開催していますが、必要がある場合には随時開催しています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



## 監査体制

田辺三菱製薬は、監査役会を設置しており、各監査役が取締役会および経営執行会議などの重要会議に出席をする他、取締役、執行役員および各部門からの職務執行状況の聴取、重要な決裁書類などの閲覧、主要な事業所や子会社の業務および財産の状況（法令など遵守体制およびリスク管理体制などの内部統制システムを含む）の調査を実施することにより、業務執行の監督および監視を行っています。

監査役は、会計監査人から監査計画および監査方針の説明を受け、四半期ごとに監査実施内容とその結果を聴取し意見交換を行うとともに、期末には「会計監査人の職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」に関する説明を受けています。また、内部監査部門から、監査計画、監査実施状況および監査結果に関して毎月定期的に情報提供を受け意見交換を行うとともに、半期ごとに財務報告に関わる内部統制システムの評価結果の報告を受けています。

さらに、監査役監査、社外監査役の職務遂行のサポートを行うため、業務執行から独立した監査役室を設置し、専任のスタッフを3名配置しています。

その他、内部監査として、執行部門から独立した監査部を置き、各執行部門における内部統制状況の監査を行っています。また、会計監査人に新日本有限責任監査法人を選任し、正確な経営情報を開示するなど、適正な監査が実施される環境を提供しています。

## 社外役員

経営の透明性、客観性を確保するため、法律の専門家である弁護士および銀行・証券会社出身の2名の社外監査役に加え、2011年6月22日より、企業経営者としての豊富な経験と科学技術やコーポレート・ガバナンスに関する幅広い見識を有する、独立性の高い社外取締役を新たに2名選任し、社外からの視点による監視・監督機能のさらなる充実を図りました。

## ステークホルダーへの情報開示

患者さん、医療関係者、株主・投資家、地域社会など、すべてのステークホルダーの当社に対する理解を促進し、適正な評価を得ることを目的に、経営方針、経営目標、財務状況などの企業活動に関する重要な会社情報を、公正かつ適時・適切に開示するよう努めています。

情報開示にあたっては、金融商品取引法などの関係法令および上場証券取引所規則を遵守するとともに、情報開示規則に基づき、情報開示社内体制に従って、すべてのステークホルダーに対し、内容的にも時間的にも公平な開示を行っています。また、社会の一員として、すべてのステークホルダーの声を真摯に受け止め、ステークホルダーとの情報の共有化に努め、相互理解を深めていきます。

会社の財務状況、新製品の開発状況、重要な経営方針や事業展開については、機関投資家向けに決算説明会、R&D (Research and Development=研究開発) 説明会、事業説明会などを開催しています。また、これら説明会の模様は、個人投資家・海外投資家の皆様にもご覧いただけるよう、動画・音声配信を質疑応答の内容とともにホームページに掲載しています。その他、国内外の株主・投資家に向けた経営内容に関する年次報告書として「アニュアルレポート」を発行しています。



アニュアルレポート2011

# コンプライアンス・リスクマネジメント

## コンプライアンスの徹底に向けて

田辺三菱製薬グループは、チーフ・コンプライアンス・オフィサーを委員長とするコンプライアンス推進委員会を中心に、グループ会社を含めたコンプライアンス推進体制を構築しています。

また、企業行動憲章に基づいた具体的な行動のあり方を定めた「コンプライアンス行動宣言」を主軸に、研修、ホットライン通報・相談対応などの推進活動に取り組んでいます。

品質管理問題に対する社会からの信頼回復に向け、コンプライアンス推進体制を強化するために、社長直轄の「内部統制・コンプライアンス推進部」を2011年6月に新設し、当社グループ全体の役員・従業員のコンプライアンス意識を充実していきます。

### ■田辺三菱製薬グループコンプライアンス推進体制



### コンプライアンス行動宣言

1. 私たちは、生命関連企業に従事する者として、高い倫理観をもって行動します
2. 私たちは、互いの人権を尊重し、安全で快適な職場環境づくりをめざします
3. 私たちは、事業活動に関わる法令を遵守します
4. 私たちは、地球環境の保護に積極的に取り組み、社会との共生を図ります
5. 私たちは、常に公正な取引を行います
6. 私たちは、情報を適正に管理し、適時・適切に開示します
7. 私たちは、会社資産を適正に管理し、効率的に活用します

## ホットライン

田辺三菱製薬グループでは、法令や社会のルールに反する事例に関する通報・相談窓口として、社内・社外にホットラインを設置しています。対応状況として、イントラネットに半期ごとの対応件数を掲載する他、研修で最近の傾向や特記すべき事例を報告しています。また、フリーダイヤルの開設や時間外受付日の設定を行い、利用しやすいホットラインをめざしています。

さらに、取引先関係者の皆様も、当社グループに関する製品についてコンプライアンスの観点から疑問を抱かれたり対処に迷われた場合、その内容を直接通報していただく窓口を設置しました。

### ■2010年度ホットライン対応件数

法令・社内規則関連	労務管理	事前相談	その他	2010年度合計
38	27	6	5	76

## コンプライアンス研修

田辺三菱製薬グループでは、製薬企業に従事する者としてふさわしい規範意識や職場意識を培うため、年間を通してさまざまな形式で研修を行っています。

関係会社も含め、全従業員を対象に、2010年度上半期は全社共通研修、下半期は部門別研修を実施しました。部門別研修では、各部門で業務に即したテーマを選定し、関係法令や事例検討を取り上げました。

### ■2010年度コンプライアンス研修実施一覧

	研修対象	実施回数	受講者数
コンプライアンス研修	全社共通研修 (全従業員：派遣社員等を含む)	90回	8,109人
	部門別研修 (全従業員：派遣社員等を含む)	60回	7,720人
	トップセミナー (役員・国内関係会社社長)	1回	34人
人権啓発研修	ブロック研修(役員、職制)	37回	773人
	一般研修 (担当職：派遣社員等を含む)	102回	6,515人
新任職制研修		2回	108人
職制研修		3回	142人
新入社員研修		1回	68人



## 対話集会の開催

信頼回復に向けた当社グループ全体での取り組みの一つとして、職場単位での対話集会を開催しました。この取り組みは、メドウェイ問題に関して、役員等が生の声で当社グループの全社員に語りかけることで、社員一人ひとりに問題意識を育ませ、共有化することを目的としています。なお、対話集会は、2010年9月より開始し、同年11月までに計90回実施しました。



対話集会の様子

## 「企業行動憲章確認の日」の実施

メドウェイ問題を契機として、不正行為を二度と繰り返させないため、役員・社員一人ひとりがコンプライアンス意識を振り返る日として「企業行動憲章確認の日」を制定しています。

2011年度は、社長メッセージを発信するとともに、社外委員会の委員を務められている先生方に講演を実施いただきました。

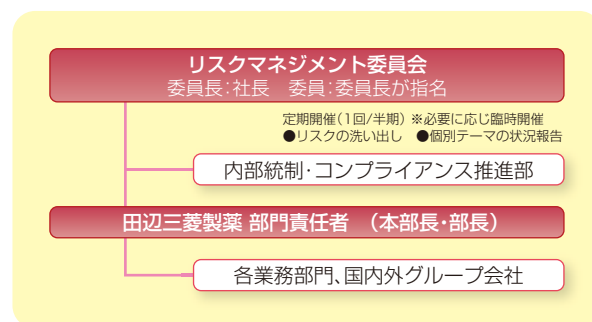
## 事業活動に伴うリスクの管理

田辺三菱製薬グループは、事業活動に伴うリスクを適切に管理するため、「リスクマネジメント規則」を制定し、当該規則に則った体制を構築および運用しています。当該規則に従い、社長を委員長とするリスクマネジメント委員会（半期に1回開催および必要に応じて臨時開催）を設置し、当社およびグループ各社を含めたリスクの洗い出しとその対応状況について、定期的に

確認しています。今後の課題として、リスクに対する全社横断的な対応をより徹底していく予定です。

当社グループは「コンプライアンス行動宣言」において、反社会的勢力に対し利益供与を行わないことを宣言するとともに、有事における具体的な実践ポイントを規定しています。また、「取引先の属性チェックに関する実施要領」を制定し、取引先の属性をデータベースで一元管理して、反社会的勢力との取引回避に努めています。

## ■ 田辺三菱製薬グループリスクマネジメント体制



## 危機発生時の対応

災害や事故およびパンデミックインフルエンザ流行などの危機発生時または発生の恐れがある場合、リスクマネジメント規則および緊急連絡基準などに基づき、損害を最小限にとどめるための措置を講じ、状況によっては対策本部を設置してその対応にあたることとしています。

東日本大震災では、地震発生直後より従業員と家族の安否、各拠点の被災情報を収集する一方、臨時のリスクマネジメント委員会を開催して、地震対策本部の設置を決定しました。

地震対策本部は、緊急フェーズとして医薬品の安定供給(工場・物流センターの早期復旧)と被災地支援(救援物資、義援金・見舞金、緊急ローンなど)、第2フェーズとして余震、電力不足への対応、といった段階的な方針を決定し実行しました。

# 人材育成と 職場づくり

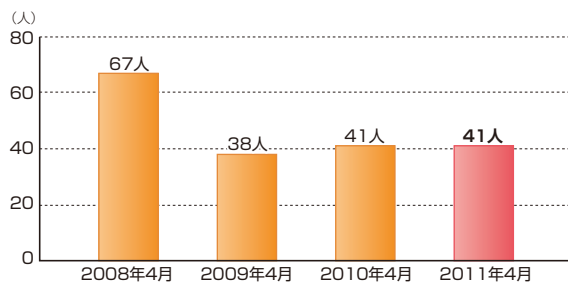
田辺三菱製薬は、持続的な成長を実現するうえで、人材こそが最も重要な経営資源であると考えています。

そのため、当社では従業員一人ひとりが自らの能力・自分らしさを最大限に発揮できるよう、人材育成と自由闊達な職場づくりを進めています。

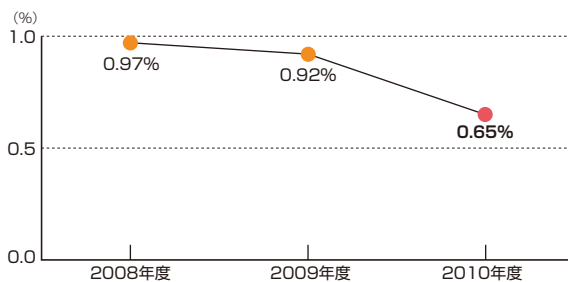
## ■従業員数(単位:人)

	2008年3月末	2009年3月末	2010年3月末	2011年3月末
グループ	10,361	10,030	9,266	9,198
単体	6,266	5,715	5,186	4,957
男性	5,021	4,563	4,152	3,968
女性	1,245	1,152	1,034	989

## ■新卒採用数(単体)



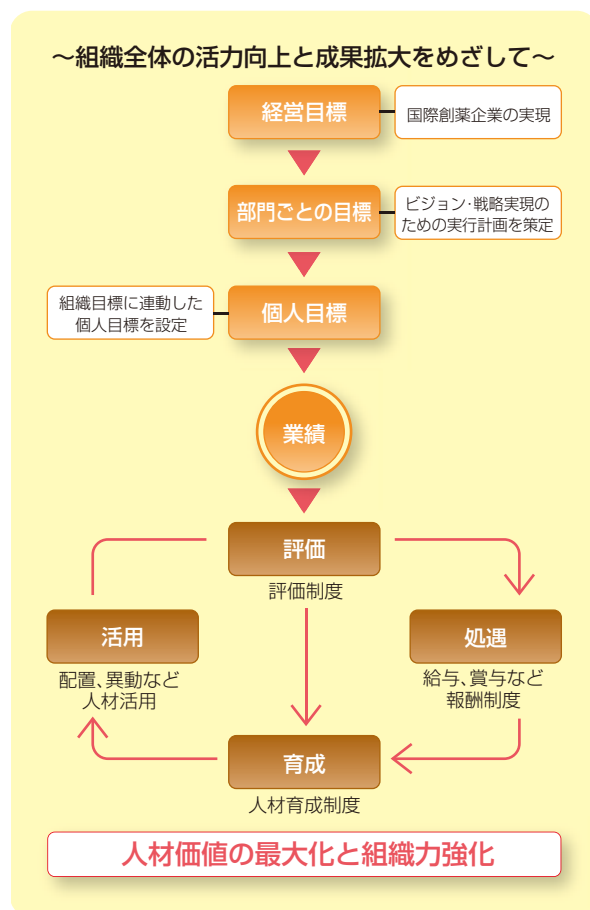
## ■離職率



## 人事の基本的な考え方

田辺三菱製薬では、従業員一人ひとりが高い倫理観を持ち、公正かつ誠実であることをすべてに優先します。常に「企業行動憲章」に立ち返り、そこに掲げる4つの行動規範<使命感と誇り><挑戦と革新><信頼と協奏><社会との共生>を日々の行動や具体的な業務に落とし込み、仕事に邁進できる人材の育成を心がけています。そして「闊達で躍動感溢れる組織集団」をめざし、その風土づくりと「組織力を強化し成果の拡大を支える人づくり」を実現してゆくための人事制度として「人材総合マネジメントシステム」を導入しています。

## ■人材総合マネジメントシステム



## 人材育成の強化と研修体系の充実

国際創薬企業の実現に向けて、「自らの役割を自覚し、成長意欲にあふれ、主体的な行動により組織の活性化と会社業績に継続的に貢献する人材」を中長期的な視野で計画的に育成していきます。そのために、2011年4月より、新人の採用から育成までを一貫して行うべく「人材育成部」が発足しました。2010年度は、全職制を対象とした研修や選抜型研修の充実を図りましたが、今後は、階層別や選抜型研修のさらなる充実、キャリア形成・自己啓発の支援等に取り組んでいきます。

## 人権への考え方と取り組み

田辺三菱製薬グループは、企業行動憲章をベースに、国連グローバルコンパクトの「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則を尊重し、責任ある企業市民としての活動を行っています。

社長を委員長とする人権啓発推進委員会が中心となって全社的に人権啓発に取り組み、役員・職制を対象とするブロック研修と担当職（派遣社員等を含む）を対象とする一般研修を実施しています。また、毎年12月の人権週間に先立ち、人権標語を募集して、その作成を通して人権問題を考え、人権意識の高揚を図っています。2010年度は当社グループ全体から329作品の応募がありました。

### ■ 研修体系

等級	階層別研修	選抜型研修	キャリア形成支援	自己啓発支援
基幹職	役員 部長 新任部長 職制 新任職制 職制アセスメント 合格者 新K1研修	次世代リーダー育成プログラム グローバル人材育成プログラム 社外プログラム派遣	(自己成長への動機付け) 貢献領域発見・確立	選択型研修 英会話・中国語会話 社内TOEIC 通信教育
	新E等級 入社3年次 新入社員			
一般職				

## 労働組合との関わり

2009年4月、旧田辺製薬と旧三菱ウェルファーマの両労働組合が合併し、「田辺三菱製薬労働組合」が設立されました。会社と労働組合とは労働協約を締結し、組合員の労働条件や権利を保障しています。定期的に開催している労使懇談会では、会社状況に関するさまざまな情報の共有を行っています。また、特定の課題については、労使委員会で労使間の意見交換を行い、コミュニケーションの向上を図りながら、より良い労働環境の実現をめざしています。



労使懇談会

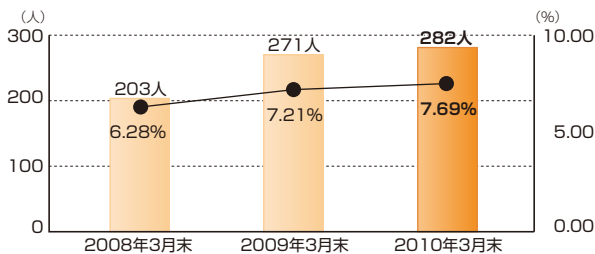
# 人材育成と職場づくり

## 人材の多様性を重視

少子高齢化による労働人口の減少や個人の価値観の多様化が進む中で、田辺三菱製薬は、個々の能力を最大限に発揮して活躍できるよう、従業員のライフスタイルに合わせた働き方を支援する勤務形態（フレックスタイム制、裁量労働制、事業場外みなし労働制、短時間勤務制など）を導入しています。また、女性社員のエキスパート等級\*以上への登用が拡大しているなど、女性社員の活躍の場がひろがっています。2009年度には定年退職後の再雇用の仕組みを再構築し、60歳を超えても、なお働く意欲のある希望者でかつ、一定の基準を満たすすべての方に、これまでに積み重ねてきた経験や能力を発揮していただくことのできる制度を取り入れています。また、障がい者の雇用については、従来より法定雇用率（1.8%）を超える雇用を実現しています。

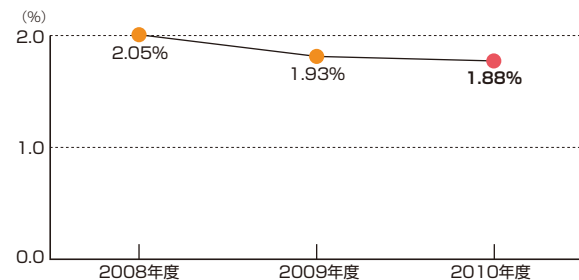
\*エキスパート等級  
係長級に相当し、専門的あるいは指導的役割を担う。

### 女性社員のエキスパート等級以上登用率



■ エキスパート等級以上 ● 全体割合

### 障がい者雇用率



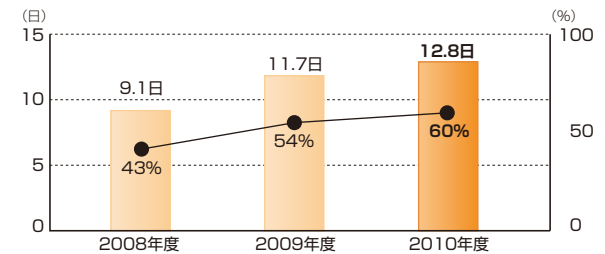
## ワーク・ライフ・バランスへの配慮

出産・育児・介護など、さまざまなライフイベントにあっても、社員一人ひとりがやりがいや誇りを感じながら、安心して働き続けられる職場環境の整備を心がけ、仕事と家庭との両立支援に努めています。次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画もこうした考えのもとに実施しました結果、田辺三菱製薬は、2007年以降、3期連続の「基準適合一般事業主」（くるみんマークの取得）の認定を受けました。また、社員が効率的な働き方への意識を持ち、短時間でより高い成果をあげることをめざす「タイムマネジメント運動」を2009年から実施しています。



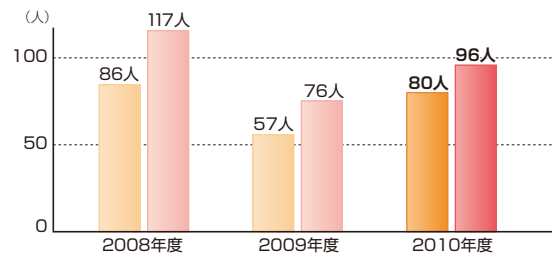
くるみんマーク

### 有給休暇取得率



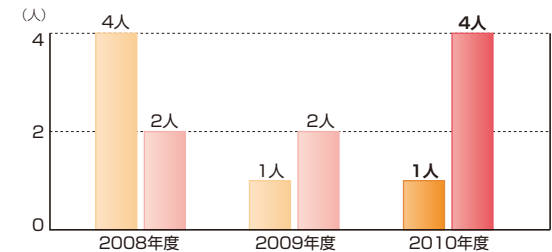
■ 平均取得日数 ● 平均取得率

### 育児休業・育児短時間勤務制度使用実績



■ 育児休業 ■ 育児短時間勤務

### 介護休業・介護短時間勤務制度使用実績



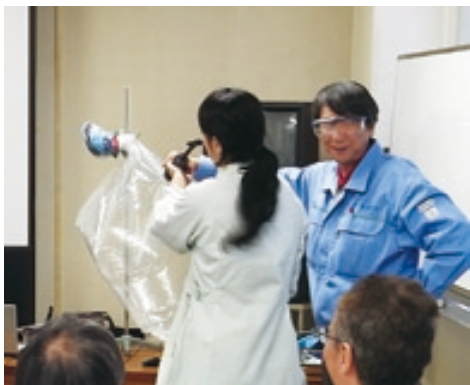
■ 介護休業 ■ 介護短時間勤務

## 労働安全衛生への取り組み

田辺三菱製薬は、安全は企業存立の基盤であるとの考えのもと、全員で事故・災害ゼロに向けて活動しています。特に、連続的かつ継続的な安全衛生管理を推進していくことを目的に、労働安全衛生マネジメントシステムの構築を進めており、PDCAの回る仕組みを構築し労働安全リスクの低減に努めています。

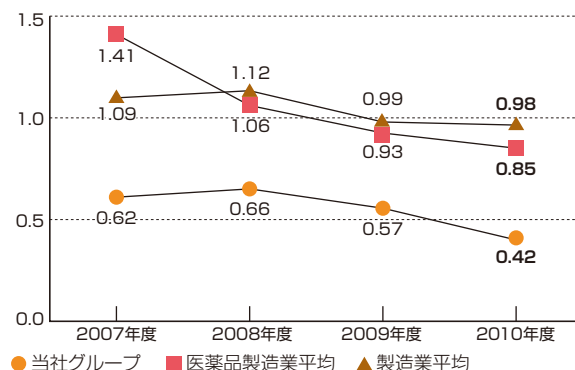
システム運用に合わせて、働くすべての人の安全に対する感性をアップさせることがリスク低減には重要であると考えています。そのために、従業員の安全教育（危険予知訓練、ヒューマンエラー対策セミナー、体感教育など）を毎年継続して実施し、現場に潜む危険を認識する能力の向上をめざしています。

なお、2010年度の生産・研究部門における休業度数率は0.42と昨年度より改善しました。



有機溶剤の怖さ体感研修  
 吸収缶の能力を実験で体感し、有機溶剤の怖さを学んでいます

### 休業度数率



## 化学物質の安全管理

田辺三菱製薬では、工場・研究所などで種々の化学物質を取り扱っています。今年度は、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）および労働安全衛生法（安衛法）に基づいて、研究・製造などの各段階で、新規化学物質を扱う際に必要な法手続きが確実に行われるよう「化審法・安衛法にかかる化学物質管理要領」を制定し、関係部署が連携して管理しています。

## 新人MRの交通事故対策

田辺三菱製薬では、新人MRの交通事故を防止するために、配属前に自動車教習所での安全運転教育を実施しています。

2010年度は「事故ゼロ」を目標に掲げ、教習所における運転技能の検定基準の見直しや運転未熟者へは一定基準に到達するまで実技指導を徹底するなど、対策を強化しました。

その結果、営業活動開始後の事故率を前年度に比べほぼ半減することができました。今後もさまざまな施策を通じ、「事故ゼロ」の目標に向けて推進していきます。

## メンタルヘルスケア

職場のストレス対策として、メンタルヘルスケアに継続的に取り組んでいます。契約専門医の来社事業所を増やし、従業員のメンタル不調時や職場復帰支援期間中および復職後の面談指導など、総合的なフォロー体制に加え、健康保険組合とも連携し、カウンセラーによる面談や電話相談など、体制の充実を図っています。また、メンタル不調の要因のひとつでもある長時間労働に対しても、法定を上回る基準（月80時間）で産業医面談の機会を設けるとともに、時間外労働の削減に取り組んでいます。

# 社会貢献活動

田辺三菱製薬では、ボランティア活動への取り組み、患者会活動への支援、さらには財団による研究助成など、さまざまな形でよき企業市民として社会に貢献するための活動を積極的に行っています。

## MSCボランティア・サロン

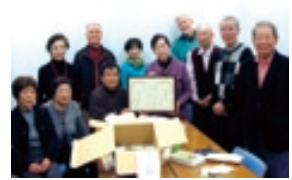
田辺三菱製薬は、ボランティア活動に参加されている方々、あるいはボランティアに関心を持つ方々のための交流の場として、講演会とミニコンサートの集い「MSCボランティア・サロン」を隔月で開催しています。2010年度は「介護問題」や「がん」などをテーマに取り上げました。

また、使用済みの切手やプリペイドカードなどを収集し、福祉団体などに寄贈する活動も行っており、これら寄贈した収集物は、予防可能な感染症で命を落とす子どもたちが多くいる国や地域に、ワクチンを贈る活動を行う国際支援団体「認定特定非営利活動法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)」をはじめとする団体の運営に役立てられています。なお、この収集活動は、社外の方々にもご協力いただいております。2010年度は本収集活動に永年協力いただいている「彩の国いきがい大学大宮学園連絡協議会 ボランティア部」に感謝状を贈呈いたしました。感謝状の贈呈に際しては、同協議会より「当部員全員、大変喜



講師による講演会

んでおります。広報誌にも掲載してさらにPRし、活動を推進していきたいと思っております。」とのコメントをいただきました。



感謝状の贈呈

## 患者会活動の支援

患者さん中心の医療実現のために、患者会との情報交換、患者会主催の総会・医療講演会などでのボランティアの支援を行っています。

2010年度では、「日本リウマチ友の会」「全国脊髄小脳変性症・多系統萎縮症友の会」「復生あせび会」「IBDネットワーク」「パーチェット病友の会」などの患者会の活動を支援しました。



患者会の活動

## 患者会よりいただいたご意見

脊髄小脳変性症治療剤「セレジスト」が2000年に発売されたことを機に、当会は種々の面で田辺三菱製薬より支援いただいています。

当会の活動への助成、あるいは医療講演会や相談会開催の際の社員の方のボランティア活動、また本疾患患者やその家族を対象とした解説書シリーズの寄贈などは、根本的な治療法のない難病に悩む患者や家族にとって、日常生活を前向きにそして豊かに過ごせるようにするものであり、当会の活動の充実に大いに寄与していただいているものと感謝しています。

今後も引き続き当会の活動にご支援いただくとともに、創薬研究のさらなる推進により、脊髄小脳変性症を根本的に治療する薬剤が一日でも早く開発されることを期待しています。

NPO法人  
全国脊髄小脳変性症・  
多系統萎縮症友の会  
会長 齋藤 亮二氏



## 財団の支援事業

田辺三菱製薬は、「公益財団法人 先進医薬研究振興財団」および「財団法人 日本応用酵素協会」に出捐し、医学・薬学・農学・理学などの幅広い領域において、財団活動を通じた研究の推進と知識の普及を図り、国民の医療と健康に貢献しています。

### ■ 先進医薬研究振興財団(2010年度)

精神薬療分野研究助成	一般研究助成	24件	2,400万円
	萌芽研究助成	10件	1,000万円
	海外留学助成	3件	600万円
血液医学分野研究助成	一般研究助成	24件	2,400万円
	萌芽研究助成	10件	1,000万円
	海外留学助成	3件	600万円
循環医学分野研究助成	一般研究助成	24件	2,400万円
	萌芽研究助成	10件	1,000万円
	海外留学助成	3件	600万円
特定研究助成		2件	2,000万円
合計		113件	14,000万円

### ■ 日本応用酵素協会(2010年度)

研究助成	酵素の応用研究、および生命科学に関連する酵素の研究	30件	2,250万円
活動助成	日本応用糖質科学会	1件	30万円
	成人病の病因・病態の解明に関する研究会	40件	1,500万円
	Vascular Biology Innovation Conference	20件	1,050万円
	全身性炎症疾患の病因・病態の解明に関する研究会	10件	1,000万円

※先進医薬研究振興財団は、2011年4月、内閣総理大臣より公益認定を受け、公益財団法人に移行しました。

※日本応用酵素協会は、2011年8月現在、公益認定の申請中です。

## 東日本大震災に対する義援金活動

田辺三菱製薬は、東日本大震災による被災者の皆様の救援ならびに被災地の復興にお役立ていただくため、日本赤十字社を通じて義援金1億円を寄付するとともに、製薬協を通じて医療用医薬品の無償提供を行いました。また、OTC医薬品についても、うがい薬や胃腸薬、整腸薬などを無償提供しています。

なお、当社グループ会社である長生堂製薬も1,000万円の義援金を寄付いたしました。

## タナベ インドネシアにおける河川清掃キャンペーン

グループ会社であるタナベ インドネシアは、2010年6月、ジャワ島西部のボゴール地区で行われた河川清掃のキャンペーン活動に参加しました。タナベ インドネシアは、本キャンペーンのスポンサー企業として参加者へ飲料水を提供した他、同社の社員も清掃および植樹活動に協力しました。

本キャンペーン活動では、例年テーマを設定した環境保護活動が行われており、今回は、「河川流域を守ろう」をテーマに、西ジャワ州の政府、民間団体ならびに民間企業75団体約1,000人が参加、製薬業界からはタナベ インドネシアを含め地元大手製薬会社の4社が参加しました。



河川清掃の様子



飲料水の提供

## 「こどもの国」に一般用医薬品を寄贈

社会福祉法人こどもの国協会が運営する「こどもの国」(神奈川県横浜市)に当社製品を含む一般用医薬品を寄贈いたしました。この活動は、社会貢献活動の一環として、1971年より継続している活動です。「今回寄贈した医薬品は、園内で遊ぶ子どもたちのみならず、一緒に来園される保護者の方々にも大変重宝しています」と、こどもの国・安沢園長より感謝の言葉をいただきました。



医薬品を寄贈

# 環境活動

地球環境の保護と持続可能な社会を実現するため、事業活動のあらゆる面で、環境に与える影響の把握に努めるとともに、環境負荷の低減に向け、環境に配慮した活動に自主的かつ積極的に取り組み、環境情報の開示や環境・社会貢献活動などの環境コミュニケーションを推進しています。

## 田辺三菱製薬環境安全理念

田辺三菱製薬は、  
国際創薬企業として  
社会から信頼される企業をめざし、  
地球環境の保護と人々の安全の確保に  
積極的に取り組みます。

## 環境安全基本方針

1. 国内外のすべての企業活動において、環境に与える影響を評価し、継続的に環境負荷を低減する。
2. はたらく人すべての安全への配慮を優先し、労働災害を防止する。
3. 環境安全活動において明確な目標を定め、その達成のために効果的な推進体制を維持改善する。
4. 環境安全に関わる法規制遵守はもとより、社内外で取り決めたさらに高いレベルの管理基準に基づいた活動を推進する。
5. 従業員一人ひとりの環境安全に対する意識を高めるため、計画的に教育訓練を行う。
6. 環境安全に関する情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションを深める。
7. 地域社会の環境・防災活動に参画し、積極的に協力するとともに、事故・災害などの不測の事態に備え対策を講じ、その影響を最小限にとどめる。
8. 関係会社には本基本方針に沿った対応を求め、その活動を支援する。

## 環境安全マネジメント

### 環境安全マネジメント

田辺三菱製薬グループは、生命関連企業としての高い使命感と倫理観のもと、事業活動に関わる法令を遵守するとともに、地球環境の保護と地域の安全確保に自主的かつ積極的に取り組むことをコンプライアンス行動宣言に定めています。また、環境安全理念のもと、環境安全活動に関する施策の基本事項として「環境安全基本方針」を制定し、活動を推進しています。

### マネジメント体制

社長を統括者とする環境安全管理体制を構築し、その協議機関として経営執行会議メンバーを委員とする「環境安全委員会」、および田辺三菱製薬グループの環境安全に関わる課題に対して企画・推進を行うための「環境安全連絡協議会」を設置しています。また、専任部署として環境安全部を設置し、国内外のグループ全体で環境経営を推進しています。

2011年度からの環境中期行動計画として4項目を重要課題に掲げています。

### ■ 環境中期行動計画 重要課題

テーマ	目標
省エネルギー・地球温暖化防止	・ 2015年度のCO <sub>2</sub> 排出量を2005年度比で30%以上削減する
廃棄物の削減・資源循環	・ ゼロエミッションを推進し、廃棄物排出量および最終処分量ともに継続的に削減する ・ 排出事業者責任として、委託先を含めて適正処理を推進する
化学物質の排出削減	・ 化学物質を適正に管理し、環境中への排出を継続的に削減する
環境マネジメントの充実	・ 事業所の環境に関わるリスクマネジメントを向上させる ・ 環境事故ゼロを継続する



## 環境情報把握・開示の対象範囲

CSRレポートでは、田辺三菱製薬グループの国内の連結子会社および持分法適用子会社の生産・研究・物流拠点、および海外の連結子会社の生産拠点を対象に環境情報を把握し開示しています。

### 環境情報把握、開示の対象会社

国内：田辺三菱製薬、田辺三菱製薬工場、ベネシス、  
パイファ、田辺製薬吉城工場、MPロジスティクス、  
田辺アールアンドディー・サービス、長生堂製薬、  
ホシエヌ製薬  
海外：台湾田辺製薬、天津田辺製薬、  
ミツビシ タナベ ファーマ コリア、  
三菱製薬(広州)、タナベ インドネシア

## ISO14001、エコアクション21認証取得状況

田辺三菱製薬グループの主な生産拠点ではISO14001認証、エコアクション21認証、あるいは自治体創設の認証制度を取得しています。また、アジア地域の海外生産拠点では、ミツビシ タナベ ファーマ コリア、三菱製薬(広州)、タナベ インドネシア、天津田辺製薬がISO14001認証を取得しています。

その他、研究所、物流センター、オフィスなども、立地状況や業務内容に応じて、適切な環境・安全マネジメントを遂行し、環境パフォーマンスの向上に取り組んでいます。

## 環境安全リスクマネジメント

生産、研究などの事業活動での有害化学物質の環境中への漏洩・拡散などによる環境安全リスクを把握し、法令遵守はもちろんのこと、さまざまな環境安全リスクを想定した対策を講じ、予防保全を前提とした活動を進めています。また、リスク発生時に的確に対処できるように「環境安全リスクマネジメント細則」に手順を定め、教育・訓練を実施しています。

## 環境安全監査

2010年度は田辺三菱製薬グループの国内・海外計20事業所を対象に、環境安全活動の進捗状況や関連法規の遵法性を確認する「環境安全監査」を実施しました。

国内事業所では環境・安全に関わる書類調査を踏まえ、担当者ヒヤリングと環境保全施設、製造部門や試験・研究部門の現場確認を実施し、環境面では法律や条例で要求される事項の遵守評価、安全についてはリスクアセスメントやSA(安全に関わる事前評価)の実施状況を確認しました。

海外事業所では、リスクマネジメントの観点から国内事業所の監査に準じた点検、ヒヤリングや現場確認を実施し、レベルアップに向けて指導しています。

今後も環境安全監査を充実させ、環境安全管理の重要性について

認識を広めるとともにコンプライアンスの徹底を図っていきます。



環境安全監査の実施状況

## 土壌汚染対策

2009年3月に閉鎖したエーピーアイコーポレーション・久寿工場(三重県四日市市)の跡地では、汚染土壌の浄化を完了後、嫌気性バイオ法による地下水浄化対策を実施しています。地下水基準値を超過したエリアでは、汚染原因物質が生物的に還元分解され汚染濃度範囲が縮小するなどの浄化効果を確認しています。引き続き行政の指導のもと、敷地外部への影響についてもモニタリングするなど、適正に対策を推進していきます。

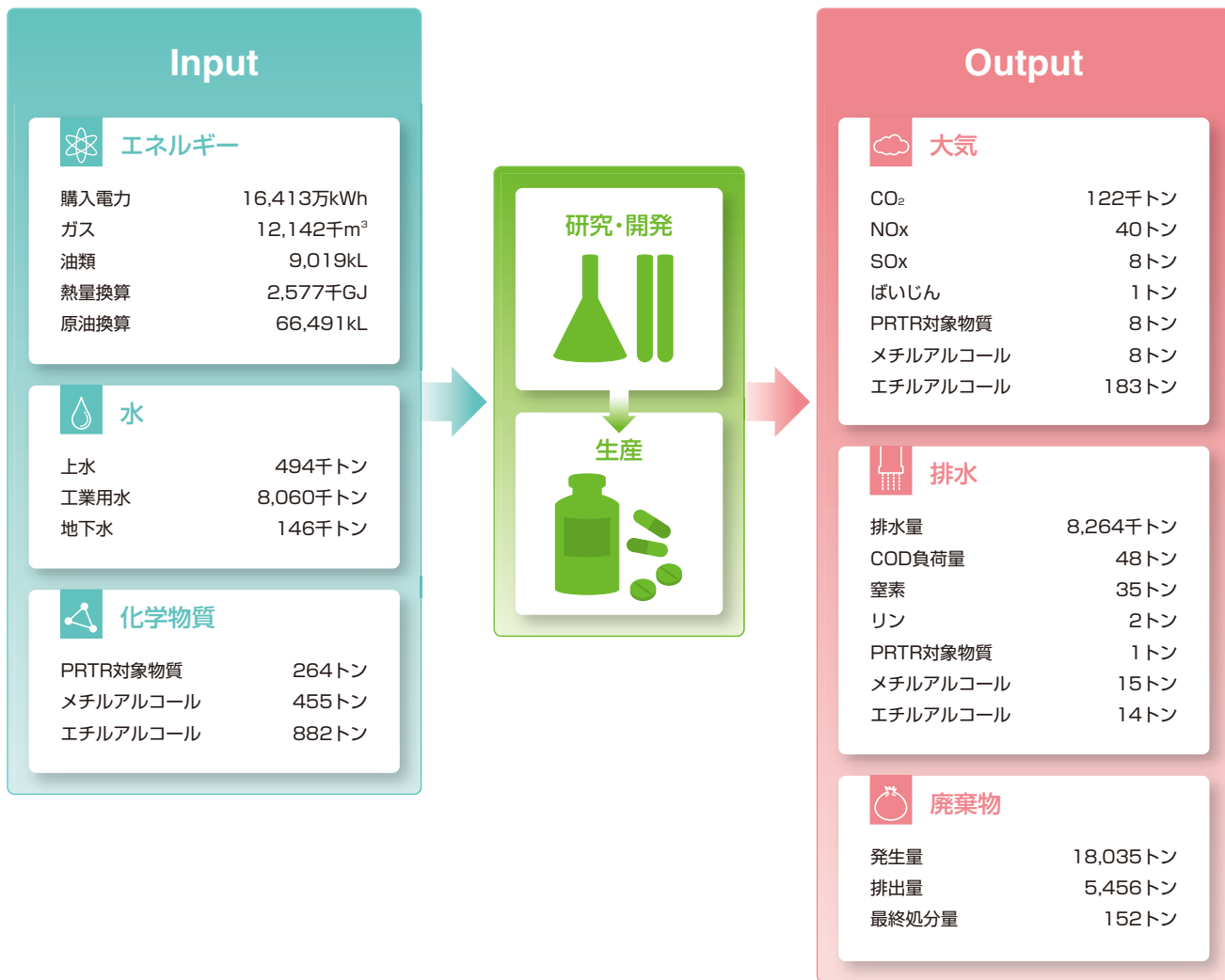
また、今後実施する事業所の統廃合や再構築等での土地の形質変更時には、改正土壌汚染対策法に基づき、届出・調査・報告を適正に実施するとともに、調査結果の情報開示と汚染が確認された場合の対策に努めていきます。

## 環境負荷の全体像

### Input/Output

#### ■ 研究・開発、生産におけるInputおよびOutput

対象範囲：田辺三菱製薬グループ国内事業所(工場、研究所、物流センター)



### 海外生産拠点の環境パフォーマンス

エネルギー使用量	電力	1,156万kWh
	ガス	388千m <sup>3</sup>
	油類	242kL
水使用量		428千トン
CO <sub>2</sub> 排出量		8.0千トン
廃棄物発生量		470トン

◆集計対象：台湾田辺製薬、天津田辺製薬、三菱製薬(広州)、タナベ インドネシア、ミツビシ タナベ ファーマ コリア

◆集計期間：2010年1月1日～2010年12月31日

◆CO<sub>2</sub>排出量は環境省・経済産業省「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver3.2)」および「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」を参考に集計。電力の排出係数は0.000561トン-CO<sub>2</sub>/kWhとした。

## 環境安全自主行動計画

### ■ 中期自主行動計画(2008～2010)／目標と2010年度の結果

テーマ	目標	2010年度の結果
省エネルギー・地球温暖化防止	・2010年度のCO <sub>2</sub> 排出量を2007年度の95%以下に抑制する	・2007年度比66.3%まで削減 ・本社および周辺ビルの集約化完了、集約前の2008年度比でCO <sub>2</sub> 排出量を45%削減 ・営業用車両のハイブリッド車を700台に増加(2009年度は76台)、電気自動車は50台維持 ・省エネ診断をベネシス京都工場で実施
廃棄物の削減・資源循環	・ゼロエミッションを推進し、2010年度の最終処分率を0.5%未満にする	・最終処分率は0.84% ・リサイクルおよび資源の有効利用の促進
化学物質の排出削減	・化学物質を適正に管理し、環境中への排出を濃度、総量ともに、継続的に削減する	・PRTR対象物質の大気排出量は2009年度と同じ ・大気排出抑制を推進
環境安全マネジメントの充実	・事業所の規模や内容に応じた環境、安全に関するマネジメントシステムの整備と充実 ・事業所における環境面、安全面のリスクマネジメントおよび緊急事態対応力の向上 ・環境安全監査の実施 ・環境教育・啓発の推進 ・環境会計の効率的運用	・環境関連法規制管理ツールの導入 ・国内外のグループ会社20事業所の環境安全監査実施 ・e-ラーニングによる環境、安全教育実施
労働安全衛生	・考えて行動する人、組織づくり ・機械設備の安全対策の検討・推進 ・安全運転の風土づくり	・基礎知識、感性アップのための教育訓練の実施 ・交通安全教育の実施、新入社員運転研修への参画
環境に配慮した製品開発	・環境負荷低減に配慮した製品開発 ・容器包装の環境配慮	・医薬品容器包装の減容・減量・軽量化の実施
オフィスの環境対策	・省エネルギーキャンペーン実施 ・グリーン購入の推進	・夏季および冬季のクールビズ、ウォームビズの徹底 ・省エネキャンペーンによる節電・節水の実施
環境コミュニケーションの推進	・CSRレポートの内容の充実と適切な情報開示 ・地域社会との交流、ボランティア活動などを通じた環境保全への貢献 ・家庭における環境意識の向上	・CSRレポート2010発行 ・大阪府主催の森づくり活動「生駒山系花屏風活動」に参加 ・日本経団連生物多様性宣言推進パートナーズに参加

## 環境会計

環境保全活動に関わるコスト、環境保全効果および環境保全対策に伴う経済効果を把握し分析することにより、従業員の環境意識向上を図るとともに、効果的・効率的な環境経営を推進しています。

2010年度の環境保全コストは投資額が42百万円、費用額が1,480百万円でした。また、環境保全対策に伴う経済効果は41百万円でした。

### ■ 環境保全コスト(百万円)

項目	投資額	費用額
公害防止コスト	33	666
地球環境保全コスト	8	37
資源循環コスト	0	419
上・下流コスト	0	33
管理活動コスト	0	281
研究開発コスト	0	0
社会活動コスト	0	3
環境損傷対応コスト	1	42
合計	42	1,480

### ■ 環境保全効果

環境負荷削減の取り組み内容		削減量
地球環境保全	温室効果ガスの排出量削減	1,017トン-CO <sub>2</sub>
資源循環	廃棄物の発生量削減	2トン
資源循環	水の使用量削減	425トン

### ■ 環境保全対策に伴う経済効果(百万円)

実質的な経済効果	削減額
有価物等の売却益	12
省エネルギーによる電気使用料等の削減	28
省資源・リサイクルによる廃棄物処理費の削減	1
合計	41

2010年度実績の集計基準：1.環境省の環境会計ガイドライン(2005年版)を参考に集計 2.集計期間：2010年4月1日～2011年3月31日 3.集計範囲：国内事業所 4.集計方法：(1)投資額は簡便法(25%・50%・75%・100%) (2)減価償却費は財務上の法定耐用年数を採用 (3)減価償却費以外の費用額は100%環境に関するもののみ全額計上 5.「環境保全対策に係る効果」の集計・評価方法：(1)環境保全対策ごとに確実な根拠に基づき算出した実質的な効果のみを集計・評価 (2)年度内の効果を1カ年に換算して集計し、対策前(対前年度)との差異をもって当該年度のみ評価

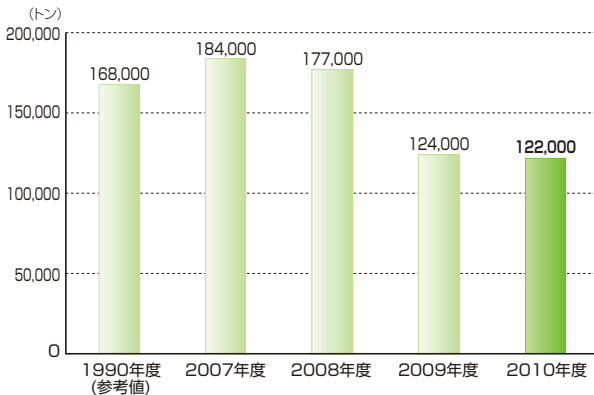
# 省エネルギー・地球温暖化防止

## 省エネルギー・地球温暖化防止

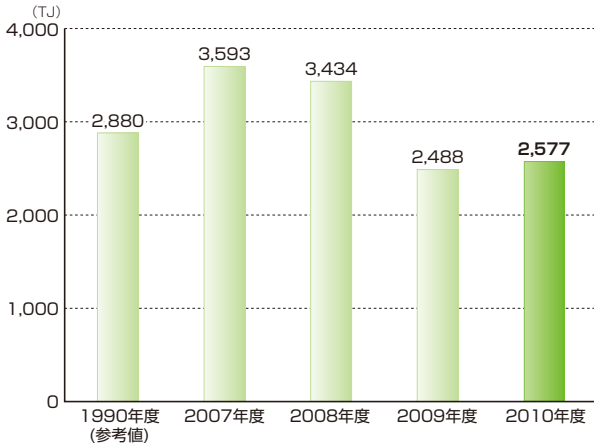
省エネルギー・地球温暖化防止は、田辺三菱製薬グループにおける環境活動の中で最も重要な課題と認識し、工場、研究所、物流、オフィスなど、事業所の規模や立地状況などに応じ、ハード面およびソフト面で省エネルギーに取り組み、事業活動に伴う温室効果ガスの排出抑制に努めています。

中期自主行動計画では「2010年度のCO<sub>2</sub>排出量を2007年度の95%以下に抑制する」ことを目標に掲げています。当社グループの2010年度CO<sub>2</sub>排出量は122,000トンで、2007年度比66.3%（2009年度比98.4%）となり大幅削減を達成しました。2010年度のエネルギー使用量は、猛暑の影響もあり前年度比3.6%増となりましたが、購入電力に係るCO<sub>2</sub>排出量算定のための排出係数が低下したことなどがCO<sub>2</sub>排出量削減に寄与しました。

### CO<sub>2</sub>排出量



### エネルギー使用量



## 改正省エネ法への対応

2010年度から改正省エネ法の本格施行により、事業者単位のエネルギー管理が義務づけられました。同年度に田辺三菱製薬の他、グループ会社では田辺三菱製薬工場、ベネシス、パイファの3社が特定事業者指定されています。

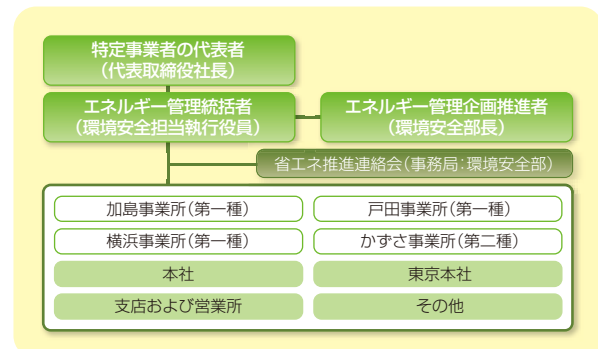
当社では、2010年度に加島・戸田・横浜の3事業所が第一種、かずさ事業所が第二種エネルギー管理指定工場等に指定されました。2010年度はエネルギー使用量が約22,700kL（前年度比4%増）、CO<sub>2</sub>排出量が約36,900トン-CO<sub>2</sub>（前年度比2%減）となりました。エネルギー管理指定工場等4事業所が全社に占める割合は、エネルギー使用量86%、CO<sub>2</sub>排出量88%となっています。なお、かずさ事業所は2010年度実績により、第一種エネルギー管理指定工場に指定される予定です。

また、2010年度からエネルギー管理統括者およびエネルギー管理企画推進者を選任するとともに、省エネ推進連絡会を発足させ、エネルギー管理体制を強化しています。

### 田辺三菱製薬のエネルギー使用量(2010年度)

事業所	原油換算(kL)	CO <sub>2</sub> 排出量(トン-CO <sub>2</sub> )
加島事業所	7,050	10,610
戸田事業所	5,760	10,050
横浜事業所	3,680	6,240
かずさ事業所	3,050	5,500
本社	740	840
東京本社	670	1,000
支店・営業所	1,070	1,750
その他	700	900
合計	22,720	36,890

### 田辺三菱製薬 エネルギー管理推進体制

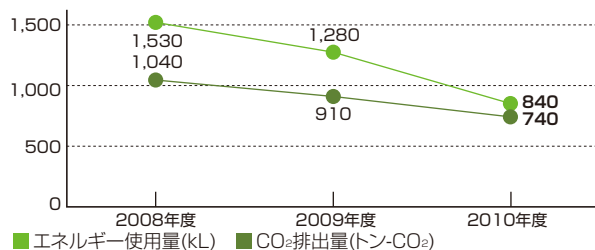


## 本社周辺ビル集約に伴う省エネ

本社(大阪市中央区)は2009年10月以降、7カ所のビルから2カ所(淀屋橋スクエアビルおよび平野町1号ビル)に集約しており、これによりエネルギー(電気、都市ガス)の使用量およびCO<sub>2</sub>排出量が削減できています。

2010年度のエネルギー使用量は2008年度比29%減、2009年度比19%減、CO<sub>2</sub>排出量は2008年度比45%減、2009年度比34%減となりました。

### ■本社周辺ビルのエネルギー使用量、CO<sub>2</sub>排出量



## 営業用車両の取り組み

2010年度の営業用車両(リース車両)は1,983台(うち電気自動車50台)で、個人所有車の併用制度を廃止し、会社契約のリース車両へ統一化したことにより、前年度比322台の増加(19.4%増)となりました。一方、CO<sub>2</sub>排出量削減のため、ハイブリッド車を76台から700台へと大幅に増やすとともに、エコドライブを徹底しスムーズなアクセル操作や無用なアイドリングをやめることなどを実践しました。その結果、ガソリン使用量、CO<sub>2</sub>排出量はともに前年度比0.6%削減となりました。

### ■営業用車両の台数、ガソリン使用量、CO<sub>2</sub>排出量

	2008年度	2009年度	2010年度
営業用車両台数	1,616台	1,661台	1,983台
電気自動車	0台	50台	50台
ハイブリッド車	0台	76台	700台
ガソリン使用量	2,578kL	2,505kL	2,490kL
CO <sub>2</sub> 排出量	5,986トン-CO <sub>2</sub>	5,815トン-CO <sub>2</sub>	5,781トン-CO <sub>2</sub>

## 事業所やオフィスでの取り組み

工場や研究所では、ポンプのインバータ化、高効率蛍光灯安定器の導入やLED照明器具の採用など、ハード面での省エネ対策を強化しています。

田辺三菱製薬工場・鹿島工場では、空調および照明負荷の軽減を目的に、医薬品製造工程で原料投入作業方法を見直し、製造室の天井を低くするなどの設計改良を実施し、空調で31トン-CO<sub>2</sub>/年、照明で19トン-CO<sub>2</sub>/年の省エネ効果を実現しました。



設計改良後の田辺三菱製薬工場・鹿島工場

加島事業所は2009年9月に国土交通省「エコ通勤優良事業所」に認定・登録され、マイカーやバイク通勤を廃止し公共交通機関・自転車を利用する「エコ通勤」を継続しています。

本社等のオフィスを含め、夏季・冬季の空調温度の管理徹底やクールビズ、ウォームビズの推進、環境省や大阪市のライトダウンキャンペーン参画と夏至・七夕の日の屋外・屋内の照明の消灯等、省エネ活動への意識啓発を進めています。

また、さらなる省エネの可能性を客観的に把握するため、外部機関による省エネ診断を継続実施しています。2010年度はベネシス京都工場で省エネ診断を実施し、空調設備および電気設備に対して、①管理標準の見直しと強化、②現設備の改良および省エネ設備・機器の導入、③高効率機器の導入、設備構成、システム改善、の各ステップの確認と展開に向けた提案を受けました。同工場では診断結果をもとに、エネルギー消費設備の効率的運用の検討を進めています。

## TOPIC 横浜事業所 新研究棟の環境対策

横浜事業所医薬2号館は、同事業所の各棟や加島事業所(大阪市)に分散していた創薬化学研究施設を統合した新棟です。新棟建設にあたっては、省エネルギーなどの環境面に配慮した設計を採用し、横浜市より建築物総合環境性能評価システム(CASBEE横浜<sup>※</sup>)でAランクの評価を取得しました。

※CASBEE横浜

「CASBEE」(建築環境総合性能評価システム、Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency)は建築物の環境性能で評価し格付けする手法。

「CASBEE横浜」は、地球温暖化対策、ヒートアイランド対策、長寿命化対策、まちなみ・景観への配慮、の側面から建築物の環境性能を総合的に評価するシステム。

評価により「S:素晴らしい、A:大変良い、B+:良い、B-:やや劣る、C:劣る」の5段階の格付けが与えられる。



横浜事業所 新研究棟

### ■大気汚染物質の排出抑制

実験室の排気はすべて活性炭による除害を行うとともに、一部排気はさらにスクラバーでのアルカリ水洗浄により2段の除害を行い排気浄化の徹底を図っています。棟内はオールフレッシュの換気システムとし、有機溶剤や試薬等を置くすべての場所で排気を取り、清浄な棟内環境の維持に努めています。



換気システム

湿式スクラバー設置による環境保全効果

活性炭で除去が不可能な酸成分・臭気成分を90%以上除去(BaU比較<sup>※</sup>)

※BaU比較

環境対策に取り組みなかった場合(BaU: Business as Usual)と比較した環境負荷削減量

### ■省エネルギー

高機能省エネドラフト、高効率の空調機器(インバータ制御および台数制御、大温度差送水、空冷チラーおよび空冷ヒートポンプ、滴下浸透気化器)の採用により大幅な省エネルギーを達成しました。

ドラフト(局所排気装置)は、化学研究における環境維持装置として必須であるものの、その大きな排気量からエネルギー使用量に占める割合が大きな装置です。このためドラフトには、最新式のプッシュ・プル型の低風量タイプを採用し排気風量を半減させるとともに、ドラフトサッシ開閉に伴う風量を比例的に変化させるドアサッシセンサーと可変風量(VAV: Variable Air Volume)制御、ドラフトサッシ閉め忘れ防止の人感センサーと集中監視システムを設置し、さらなる排気風量の低減により省エネルギーを実現しています。



高機能省エネドラフト

空調に要する使用電力量削減の環境保全効果

CO<sub>2</sub>排出量 903トン-CO<sub>2</sub>/年(BaU比較<sup>※</sup>)

### ■照明、近隣への配慮

棟内は、廊下等の他ドラフトにもLED照明を採用するとともに、高効率蛍光管、自動点灯・自動照度補正システムにより省エネルギーを強化しています。建物の色彩や屋上に設置した機械装置の騒音対策など景観や近隣への環境配慮も図っています。



廊下のLED照明

照明に要する使用電力量削減の環境保全効果

CO<sub>2</sub>排出量 13トン-CO<sub>2</sub>/年(BaU比較<sup>※</sup>)

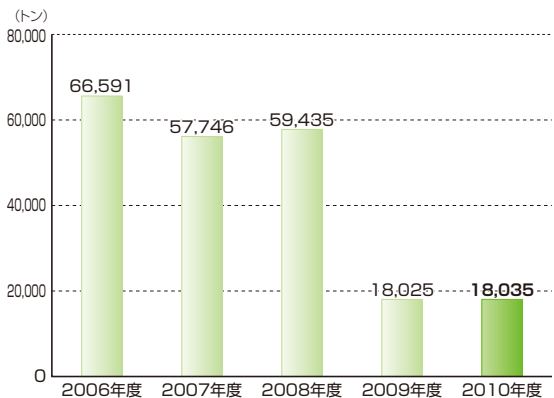
## 廃棄物削減の取り組み

自主行動計画で「ゼロエミッションを推進し、2010年度の最終処分率（最終処分量／発生量）を0.5%未満にする」ことを目標とし、廃棄物の分別ルール徹底、再資源化の促進や有価物としての排出への改善を図る一方、医薬品製造工程での包装材料等のロス削減、不良品の発生抑制など、最終処分量の削減とともに発生量の抑制も推進しています。

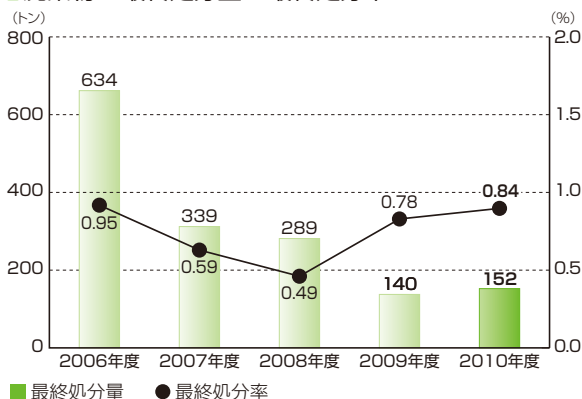
2010年度は、ベネシス京都工場で排水の活性汚泥処理に関わる管理方法を改善した他、田辺三菱製薬工場・小野田工場場で場内脱水処理装置を更新し余剰汚泥の脱水効率を向上させたことにより、汚泥の排出量を削減することができました。

2010年度の最終処分率は0.84%で目標に至りませんでしたが、引き続き排出量および最終処分量の削減等、積極的に廃棄物削減の取り組みを推進します。

### ■ 廃棄物発生量



### ■ 廃棄物の最終処分量と最終処分率



## 医薬品の容器包装における環境配慮

医薬品の容器包装は、品質の保持、表示の見やすさ、使用時の開封のしやすさなどの機能性と同時に、廃棄が容易なことや廃棄物の発生量を少なくすることが望まれます。容器包装の減容・減量・軽量化は、ご使用いただく医療機関等の環境負荷低減にもつながると認識し、取り組みを進めています。

2010年度は、製造委託先協力のもと、輸液（大室液・中室液・小室液）の3液からなる高カロリー輸液用ソフトバッグ製剤）用の出荷箱のサイズ縮小化および緩衝材等の一部削減を実施し、出荷用段ボール箱の重量を約25%減量（製品10万袋につき約8.8トン削減）することができました。

## 医薬品の輸送形態における環境配慮

「レミケード点滴静注用100」は海外で製剤化後、航空輸送で輸入しています。本医薬品は品質確保のため温度管理が重要であり、従来から多量の蓄冷剤および断熱材で保護した梱包形態で空輸していましたが、これらの輸送用梱包資材は再利用できず、輸入後に国内で廃棄処分していました。2010年度、廃棄物発生量削減の観点から輸送形態を見直し、コンプレッサー式冷房機能を装備した航空コンテナに変更しました。その結果、蓄冷材等の梱包資材が不要となり、年間で約76トンの廃棄物発生量を削減できるようになりました。



コンプレッサー式冷房機能が装備されたコンテナ

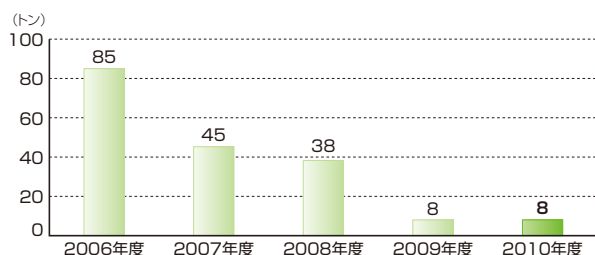
## 化学物質の適正管理

### 大気排出量の削減

中期自主行動計画で「化学物質を適正に管理し、環境中への排出を濃度、総量ともに、継続的に削減する」ことを目標に掲げ、特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）に規定される第1種指定化学物質等の環境中への排出抑制に取り組んでいます。

2010年度は、法施行令の改正により第1種指定化学物質が354物質から462物質に拡大されたため、グループ全体での取扱量が前年度より増加（83%増）しましたが、大気排出量は8トンで前年度と同じでした。

#### PRTR大気排出量の推移



### 大気・水系の管理

大気汚染防止法、水質汚濁防止法他条例や協定に基づく日常的な規制値の遵守だけでなく、貯蔵タンクからの有害物質等の漏洩や排ガス、排水等の異常時の対策にも配慮し、事業場外への環境影響を最小に留めるよう努めています。

### 生物多様性への取り組み

田辺三菱製薬は「日本経団連生物多様性宣言推進パートナーズ」に参加し、自然環境保護活動を推進するとともに、生物多様性と事業活動の関わりを把握し、生物多様性に配慮した取り組みを進めています。

自然環境保護活動では、田辺三菱製薬工場・足利工場の財団法人都市緑化基金によるSEGES (Social & Environmental Green Evaluation System)

「Excellent Stage2」認定をはじめさまざまな取り組みを行っています。

一方、水資源の有効利用も取り組みの一環と認識し、横浜事業所、田辺三菱製薬工場・鹿島工場、バイファ、ホシエヌ製薬では、実験系排水、生活系排水、スチームトラップ等の回収水、蒸留器用の冷却用水や空調設備の除湿冷ドレン水を循環利用しています。

### タナベインドネシアにおける雨水の有効利用

インドネシア環境庁による「雨水の利用」に関する規定に基づき、タナベインドネシアではバンドン工場の敷地内に2カ所の「吸収井戸」および24カ所の「バイオポア」を設置し、雨水を利用して土壌の肥沃度を維持・向上させる取り組みを行っています。「吸収井戸」は土地に雨水をろ過するために掘られた穴、「バイオポア」は直径10-15cm、深さ100cmの有機廃棄物が詰められた穴です。



吸収井戸



バイオポア

### 環境関連のトラブル

2010年度に環境関連のトラブルは4件発生しました。排水弁の操作ミスなどにより、未処理水が雨水系排水から場外へ流失するなど、水質に係るものが3件、設備管理不良によるボイラーの不完全燃焼による黒煙に起因した異臭発生が1件ありました。幸いいずれも環境に重大な影響を与える事故に至ったものではありませんでしたが、適切に行政当局へ報告するとともに、異常発生時の対応手順等について再確認し、再発防止対策を実施しました。



### 環境教育

社内イントラネットにより、従業員に対する環境意識調査の実施、田辺三菱製薬グループ各事業所における月度のCO<sub>2</sub>発生量・エネルギー使用量の掲示、環境問題や用語解説など幅広い情報を提供しています。

また、MR向けの環境e-ラーニングのプログラムを設け、社内外の環境情報をタイムリーにわかりやすく解説し、環境問題に対する認識を深め、環境意識がさらに向上するよう社員教育に取り組んでいます。

### 環境・社会貢献活動

事業所の周辺や近郊の森林等で緑化・美化などの環境・社会貢献活動を行い、良き企業市民として地域とのコミュニケーションを大切にしています。

#### ■事業所周辺の緑化・美化、自然保護活動

本社および加島事業所は例年、大阪市一斉清掃「クリーンおおさか」に参加し、事業所周辺の清掃活動を行っています。また、かずさ事業所では上総丘陵の豊かな自然環境を保全するため、動植物の生育環境の維持・回復と、かずさアカデミアパークの景観に配慮した緑化敷地・建物の維持に努めています。



「クリーンおおさか」清掃活動

#### ■生駒山系花屏風活動に参加

2010年11月、田辺三菱製薬グループの社員および家族34名が大阪府主催「生駒山系花屏風活動」に参加し、府民250人とともに柏原市峠の竜田越古道を歩き、亀の瀬地区でヤマザクラやコナラの植樹活動を行いました。



生駒山系花屏風活動

#### ■東京芝生応援団に協賛

東京都は、ヒートアイランド対策、緑化対策に加え、子どもたちへの教育効果、地域コミュニケーションの形成を促すため、東京芝生応援団（事務局：東京）として公立小中学校の校庭芝生化を推進しています。当社は、複数の企業などが参加するこの活動に2008年より参加し、芝生の維持管理を支援しています。

2010年7月、田辺三菱製薬は東京芝生応援団への支援の一環として、芝生維持管理作業参加者にアスパラドリンクを提供し、社員が小学校での管理作業に参加しました。



芝刈りの様子

## 第三者検証報告書

田辺三菱製薬株式会社御中



BUREAU  
VERITAS

2011年8月17日

ビューローベリタスジャパン株式会社



### 検証の目的

ビューローベリタスジャパン株式会社（以下 BV）は、田辺三菱製薬株式会社（以下田辺三菱製薬）の責任において発行される「田辺三菱製薬 CSR レポート 2011」（以下レポート）に記載される 2010 年度環境パフォーマンスデータの評価を実施した。BV の責任はレポートに記載される環境パフォーマンスデータについて独立した立場から客観的証拠に基づいて正確性を検証することである。

### 訪問サイト

BV は以下のサイトを訪問し、レポートの「環境報告」に記載される 2010 年 4 月から 2011 年 3 月までの環境パフォーマンスデータの正確性を評価した。

田辺三菱製薬株式会社	本社 環境安全部 横浜事業所	統括機能 医薬品の研究
田辺三菱製薬工場株式会社	小野田工場	医薬品の製造
長生堂製薬株式会社	本社工場	医薬品の製造

### 検証方法

BV は、田辺三菱製薬との合意に基づき、以下の評価を実施した。

#### 本社

- ・データの収集・集計システム及び関連するプロセスの信頼性
- ・内部検証プロセスの有効性
- ・本社で集計された環境データ及び環境関連の記載内容の正確性

#### 各サイト

- ・データ集計範囲の適切性
- ・データの計測方法、収集方法、集計方法の有効性
- ・内部検証プロセスの有効性
- ・データ集計結果の正確性

この業務は、現時点での最良の事例に基づき、BV が定める非財務情報報告に対する第三者検証手順とガイドラインに拠って行われた。加えて「国際保証業務基準 (ISAE) 3000 (2003 年 12 月改訂 国際会計士連盟)」を参考にし、限定的保証業務を行った。

### 検証結果

BV は上記検証の結果として、以下のとおり意見を述べる。

1. レポートに記載される環境パフォーマンスデータに重大な誤りは確認されなかった。
2. 検証の過程において認められたすべての誤りは、適切に修正された。
3. データの計測、収集、集計システムには信頼性があり、本社と訪問した全てのサイトにおいて適切に運用されている。

ビューローベリタスは、全社員の日々の活動における高い品質を保つためにビジネス全般にわたる倫理規定を定め、特に利害の対立を避けることに配慮しています。田辺三菱製薬株式会社に対するビューローベリタスの活動は、CSR レポートの検証のためだけに行為し、その検証業務がなんら利害の対立を引き起こすことはないと考えます。

## 第三者意見

### 「CSRレポート2011」を読んで

「CSRレポート2011」が2010年度版と大きく異なるところは、その全体構成である。2010年度版では、「マネジメント」「社会性報告」「環境報告」というCSRのトリプル・ボトム・ラインに沿って、CSRに対する取り組みが報告された。これに対して、2011年度版では、「研究開発」「信頼性保証」「生産体制」「供給体制」「情報提供」という医薬品のサプライ・チェーンに沿った企業活動をまず報告し、そのあとで、マネジメントと環境活動が紹介されるという構成になっている。これは、「医薬品の創製」が田辺三菱製薬グループのミッションであるという原点に立ち返り、本業の確実な遂行こそが企業の社会的責任(CSR)の履行につながるものだと考えに基づいていると思われる。

一般的に、CSRレポートでは、フィランソロピー、メセナ活動などに多くの紙幅が割られることが多い。しかし、かつてEC(欧州委員会)のWhite Paper(2002)が「CSRとは、(企業の)コアの活動に付加されるものではなく、ビジネスのあり方そのものである」と明確に定義したように、本筋は、本業のあり方そのもののなかにCSRの理念が組み込まれているかどうかである。今回の構成変更はCSRに対するそのような考え方にたってなされたものと理解した。

さて、本レポートの中核部分にあたる「研究開発」から「情報提供」までの報告では、営業的視点からではなく、「アンメット・メディカル・ニーズ」をテーマとした研究開発状況の紹介をはじめとして、信頼性保証や高品質な医薬品の安定的供給、医薬品情報の迅速かつ正確な提供などに焦点を合わせた記述がなされている。また、環境活動についても、環境情報や行動目標について具体的数値の開示がある。これらにより田辺三菱製薬グループが現在重点的に取り組んでいるCSR活動とその成果についてはかなり理解できた。

少し残念なことは、グループが抱えている問題は何か、未達部分は何か、それらに対してどのように取り組もうとしているのか、といったことがレポート全体から明瞭には読み取れないことである。CSRレポートは、有価証券報告書、事業報告書などと同じく、正負両面での企業の実情をディスクローズすべきものであり、今後の検討を期待する。

2010年度版で報告された「メドウェイ問題」に続いて、田辺三菱製薬工場において品質試験の一部不実施が判明したことは、メドウェイ問題の真摯な反省にたつて、トップ・マネジメント以下全社を挙げて改善計画と再発防止策が策定され、実施されていたと信じていただけに、誠に遺憾なことだった。この両者に共通しているのは、連結子会社において生じた問題だったということである。今日の大企業では、業容の発展、M&A、グローバル化、サプライ・チェーンの延伸などによって、企業グループの規模と組織は拡大、複雑化し、管理は難しくなっている。しかし、ひとたび問題が生じると、最も責任を問われるのは親会社である。つまり、外部のステークホルダー対経営者の関係にもっぱら焦点を合わせてきた従来のコーポレート・ガバナンスでは不十分で、企業グループ内のガバナンス、すなわち、ホールディング・カンパニー対傘下子会社、親会社対連結子会社あるいは系列企業の関係にも関心が払われなければならないということである。田辺三菱製薬株式会社は三菱ケミカルホールディングスグループの一員であるとともに、多くの連結子会社、関係会社をもつ企業である。今後はこのような視点でもコーポレート・ガバナンスを考えて欲しい。巨大企業における不祥事は企業グループ内ガバナンスのあり方に密接に関連しているのではないかと考えるからである。

関西学院大学大学院経営戦略研究科教授  
宮本 又郎 氏

経済学博士。専門は、日本経営史・日本経済史・企業倫理など。大阪大学大学院経済学研究科教授を経て、2006年4月より現職。経営史学会会長、企業家研究フォーラム会長、日本ベンチャー学会理事など歴任。



# 用語解説

## アライアンス

複数の企業間の提携・共同行動。

## アンメット・メディカル・ニーズ

いまだ満たされていない医療上の必要性。有効な治療方法が確立されていないことから、医薬品などの開発が強く望まれているにもかかわらず、進んでいない疾患領域における医療ニーズ。

## 医薬品の適正使用

的確な診断に基づいて、患者の状態に合った最適の薬剤・剤形、適切な用法・用量で処方決定され、調剤されること。さらに、その患者がその薬剤の説明を十分に理解し、正確に服用した後、その効果や副作用が評価され、次の処方にフィードバックされるという一連のサイクル。

## インフォームド・コンセント

診療内容について医師が患者に十分な情報提供を行い、患者の同意を得ること。

## オーファンドラッグ

希少疾病用医薬品。医療上の必要性は高いにもかかわらず、必要とする患者数が少ないことから、研究開発の投資回収が難しい医薬品。

## 開発パイプライン

製薬企業における各薬剤の開発初期段階から販売開始までの開発品のこと。

## ジェネリック医薬品

新薬の特許期間が終了した後に発売される薬で、新薬と同一の有効成分を同一量含み、同等の臨床効果が得られる医薬品。ジェネリックには「一般的な」「総称の」という意味があり、欧米では商品名ではなく医薬品の有効成分名である「一般名 (generic name)」で処方されることが多いことから、ジェネリック医薬品と呼ばれている。

## セルフメディケーション

個人が自己責任のもとに、身近に入手できる健康や医療に関する商品・情報・知識を活用し、健康の維持・増進、疾病の予防などを行うこと。軽い症状の緩和や予防のため、市販されている一般用医薬品を上手に活用して治療することなどが含まれる。

## 電子カルテ

医師が医療機関で記録する診療録 (カルテ) を、コンピューターを用いて電子的に記録・保存するシステム。

## 特定疾患

いわゆる「難病」とは、原因が不明で、治療方法が確立されておらず、生活面に長期にわたって支障をきたす疾患のこと。このうち、診断基準がある程度確立し、かつ難治度や重症度が高く、患者数が比較的少ないため、公費負担の方法をとらないと原因の究明や治療方法の開発などに困難をきたすおそれのある疾患は「特定疾患」とされている。都道府県を実施主体として、医療費の患者自己負担分の一部または全部の公費負担が行われている。

## 臨床試験

承認前の薬剤などを患者や健康な人に投与することにより、効果や副作用などを確かめることを目的として実施される試験。

## GMP (略語: Good Manufacturing Practice)

医薬品および医薬部外品の製造管理および品質管理の基準。

## GQP (略語: Good Quality Practice)

医薬品、医薬部外品、化粧品および医療機器の品質管理の基準。

## GXP (略語: Good × Practice)

製造・管理・保管・流通段階における製品の安全性や信頼性を確保することを目的に、政府などの公的機関で策定された基準を表す用語の略称。特に製薬業界に関係するものが多く、GCP (医薬品・医療機器の臨床試験の実施基準)、GLP (医薬品・医療機器の非臨床試験の実施基準)、GMP、GQPなどがある。

## ICH Q10

日米EU医薬品規制調和国際会議 (ICH) で検討されている医薬品品質システムに関するガイドライン。

## MR (略語: Medical Representative)

医薬情報担当者。製薬会社の営業担当者として医療機関を訪問し、医薬品の適正使用のために、医薬品の品質・有効性・安全性などに関する情報の収集と提供を行う。

## OTC医薬品

一般用医薬品。医師の処方せんなしに、薬局・薬店などで購入できる。薬局のカウンター越しに購入できることから、「カウンター越し (Over the Counter)」の頭文字をとっている。

## QOL (略語: Quality of Life)

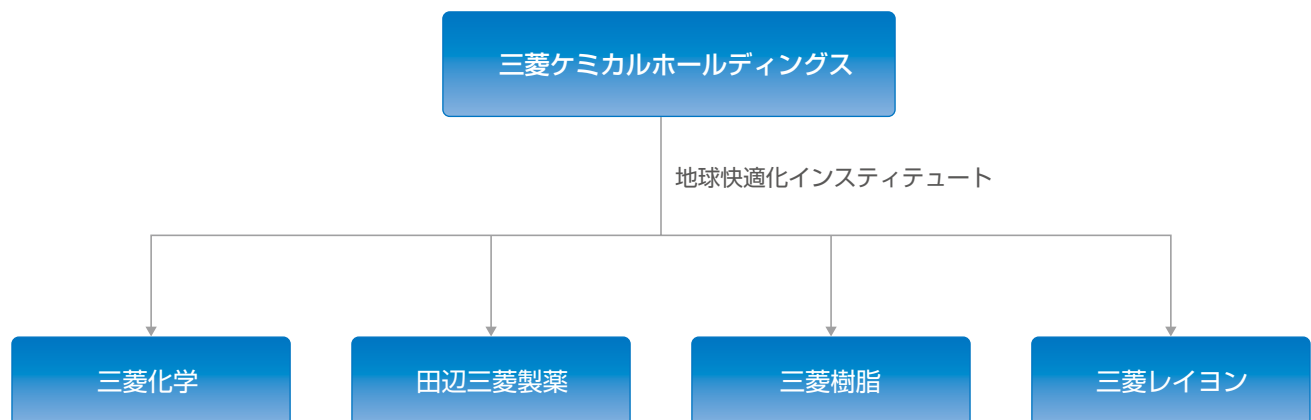
医療の場において、治療効果を優先させるだけでなく、治療後も患者が「生活の質」を下げることなく、充実感や満足感を持って日常生活を送ることができているかを尺度としてとらえる概念。

Sustainability (環境・資源)、  
Health (健康)、Comfort (快適)を  
企業活動の判断基準として  
KAITEKIの実現に貢献していきます

私たちは、グループ理念「Good Chemistry for Tomorrow  
——人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」のもと、  
Sustainability (環境・資源)、Health (健康)、Comfort (快適)を  
判断基準としたすべての企業活動を通じて、広く社会に KAITEKI 価値を提供  
することが KAITEKI の実現であり、私たちの社会的責任であると考えています。

この思いを具現化していくために、KAITEKI 価値の向上に欠かすことのできない、  
企業活動の基盤となる企業統治、安全・環境、人権・労働などの活動を推進・強化し、  
持続可能な社会の発展に貢献していきます。

三菱ケミカルホールディングスグループ体制





田辺三菱製薬



適切に管理された森林で生産された木材を原料に含む「FSC®認証紙」を使用しています。



印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」方式で印刷しています。



石油系溶剤の揮発性有機化合物（VOC）を含まない、植物油100%のインキを使用しています。